

地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報

2021

仙台市富沢遺跡保存館
SENDAI CITY TOMIZAWA SITE MUSEUM

仙台市縄文の森広場
SENDAI CITY JOMON SITE PARK

はじめに

地底の森ミュージアム（仙台市富沢遺跡保存館）は、2万年前の旧石器時代のたき火跡と森林跡を発掘したままの状態でも保存・公開し、当時の景観を「氷河期の森」として野外に復元している施設です。平成8年に開館し、これまでに97万人を超える方々にご利用いただきました。また、姉妹館である仙台市縄文の森広場は、縄文時代の集落跡が発見された山田上ノ台遺跡を保存・活用する目的で、平成18年に開館し、これまでの体験学習活動を含めた利用者は43万人を超えました。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、やむなく臨時休館をした時期もありましたが、感染対策を講じながら各種事業を推進するとともに、情報発信も行ってまいりました。

地底の森ミュージアムでは、旧石器時代の常設展示のほか、企画展「発掘！むかしのみやぎめし」など年4回の企画展、「氷河期の森」の維持管理をはじめとして、ミュージアムの特性を体感できる各種の講座や体験学習、季節ごとのイベント、仙台市縄文の森広場と連携して市内小・中学校を対象とした利用学習、職場体験、博物館実務実習などを開催しました。また、当館の特色でもある市民文化財研究員やボランティア育成などの事業、自主事業「親子でつくろう古代米」・「ミュージアム・シアター『狩人登場』」・「森の響き」・「地底の森アーカイブス」などを実施しました。さらに、ボランティア会と共催し、地域住民との交流を図る「体験！発見！地底の森」を開催したほか、大学生のサポーターや市内高校生の活動協力を得ながら、館活動の展開を図っています。

仙台市縄文の森広場では、児童生徒やご家族連れが勾玉づくりなどの多彩な体験活動に取り組んだほか、縄文文化に関する各種教室・講座など、市民参加による様々な事業を実施することができました。恒例となった季節ごとの縄文まつりでも、歴史的な空間の中で、地域の小・中学生や市民とともに楽しく有意義な交流を行うことができました。また、自主事業である「縄文のまつり復元と創造プロジェクト」・「縄文まるかじり」・「展示手法の開発・導入」などを実施しました。

地底の森ミュージアムと仙台市縄文の森広場は、テーマミュージアムとしての専門性を深めるのみならず、運営懇談会を開催するなどして市民ニーズに対応した新たな取り組みを行い、「人間と環境」を考えるランドマークとなるような事業展開を目指します。また、先人の知恵に学ぶという観点から、両館が相互に補完し合う施設としてさらに連携、協力を図りながら、歴史を継承するための事業を進めてまいります。

今後も、歴史的資源としてのみならず、豊かな地域資源としての可能性を開発していくためにも、両館の事業展開に多方面の皆様方の益々のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年9月

仙台市教育委員会
教育長 福田 洋之

(公財)仙台市市民文化事業団
仙台市富沢遺跡保存館
仙台市縄文の森広場
館長 武山 剛久

目 次

はじめに
目次
例言

地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

1. 施設の概要	1
2. 組織・運営	1
3. 沿革	2
4. 整備の目的と基本方針	8

〔地底の森ミュージアム〕

1. 令和2年度事業報告	12
(1) 展示事業	12
(2) 普及啓発事業	16
(3) 調査・研究事業	21
2. 施設管理	21
(1) 定例保守	21
(2) 施設・設備などの修繕	21
(3) 新型コロナウイルス感染症対策	22
3. 利用状況	22
4. 入館者アンケート	23
5. 令和3年度事業計画	23
(1) 展示事業	23
(2) 普及啓発事業	24
(3) 調査・研究事業	26
(4) 縄文の森広場との連携事業	26
(5) 資料の収集・保管	26
(6) 管理運営	26
(7) 刊行物	27
6. 利用案内	27

〔仙台市縄文の森広場〕

1. 令和2年度事業報告	29
(1) 展示事業	29
(2) 普及啓発事業	32
(3) 体験活動事業	34
(4) ボランティア活動事業	36
(5) 調査・研究事業	36
2. 利用状況	38
3. 入館者アンケート	39
4. 令和3年度事業計画	39
(1) 展示事業	39
(2) 普及啓発事業	40
(3) 調査・研究事業	41
(4) 資料の収集・保管	41
(5) 管理運営	41
(6) 刊行物	41
5. 利用案内	42

例 言

1. 本書は、公益財団法人仙台市市民文化事業団が仙台市より指定を受け、令和2年度に実施した仙台市富沢遺跡保存館指定管理業務(仙台市縄文の森広場を含む)の各事業などに係る実施報告と、令和3年度事業計画である。
2. 本書の編集は地底の森ミュージアムの平塚幸人、仙台市縄文の森広場の榎戸由樹が行った。

地底の森ミュージアム・仙台市縄文の森広場

1. 施設の概要

	地底の森ミュージアム	仙台市縄文の森広場
開館日	1996年(平成8年)11月2日	2006年(平成18年)7月15日
設置場所	〒982-0012 仙台市太白区長町南四丁目3-1	〒982-0815 仙台市太白区山田上ノ台町10-1
敷地面積	14,263㎡	27,350.94㎡
延床面積	2,743㎡	1,211.78㎡
建築構造	地下1階 地上1階 鉄骨鉄筋コンクリート	鉄筋コンクリート造一部2階建
特 徴	<p>建物は、コンクリート打放しの楕円形をしている。周囲の壁は地下の遺跡の保存と公開のために、建物基礎を兼ねた厚さ80cmの連続地中壁であり、それを地下20mまで築いて地下水を遮断する構造である。</p> <p>建物内部については、地下の遺跡展示室は柱のない広がりをもった大空間となっており、中地下も含めて、床にはアスファルトブロックが敷かれ、照明を抑えて清謐な雰囲気になっている。対照的に1階は床を板張りとし、自然光を取り入れた明るい空間となっている。中でも、来館者にとっては最後の空間となる展望ラウンジは窓を大きくとり、そこからは野外展示の氷河期の森が眺められるようになっている。</p>	<p>野外には、復元した竪穴住居3棟を中心にその他の遺構を表示し、環境とともに集落を再現した縄文ムラゾーンと、未調査区でイベントや発掘体験などを行う広場ゾーンがある。</p> <p>その北側の一面に出土資料などを展示し、各種体験活動ができるガイダンス施設を付設している。</p>

2. 組織・運営

両館の管理・運営は、仙台市より平成29年度から令和3年度までの5ヶ年間の指定管理者に指定された公益財団法人仙台市市民文化事業団が行っている。令和3年4月1日時点の職員配置は下記のとおりである。



なお、地底の森ミュージアムは受付・案内業務、常駐警備業務、清掃業務を、仙台市縄文の森広場は清掃および復元住居の火焚き業務を民間に委託している。

3. 沿革

	地底の森ミュージアム	仙台市縄文の森広場
1980年 昭和55年		宅地造成にともなう山田上ノ台遺跡の発掘調査で、縄文時代中期末を主とする竪穴住居跡などの多数の遺構が発見され、集落構造の全体がわかる遺跡の重要性から保存を決定する。 遺跡の活用を図るための「(仮称)原始古代村構想」の検討がスタートする。
1982年 昭和57年	地下鉄建設にともなう試掘調査で富沢遺跡が発見される。	
1984年 昭和59年		旧石器時代資料の充実を図るために第2次調査を実施する。
1988年 昭和63年	富沢遺跡第30次発掘調査において2万年前の人類の生活跡と森林跡が発見され、仙台市は遺跡の重要性に鑑み、小学校の建設地を変更し保存と活用を判断。	
1989年 平成元年	保存科学・地質学・遺跡整備・都市工学・動物生態学など各界の学識者からなる基本構想策定委員会を設置し、富沢遺跡と山田上ノ台遺跡とともに活用する方針で「仙台市旧石器の森・原始古代村の整備および仙台市考古系総合博物館基本構想報告書」を策定。	
1990年 平成2年	「基本構想」において検討課題であった遺跡の保存処理工法について「富沢遺跡保存技術調査報告書」(仙台市考古系総合博物館基本計画)を策定。	
1991年 平成3年	「(仮称)原始古代村・旧石器の森整備基本計画」を策定。	
1992年 平成4年	富沢遺跡保存館の建築基本設計、展示基本設計、富沢遺跡保存処理方式開発の業務委託、氷河期の森広場整備基本設計を行った。	
1993年 平成5年	富沢遺跡保存館の建築・展示実施設計、氷河期の森広場整備実施設計、遺構保存処理システム策定業務委託を行った。	
1994年 平成6年	富沢遺跡保存館の建設工事に着工。	
1995年 平成7年	正式名称が「仙台市富沢遺跡保存館」、愛称が市民公募をもとに「地底の森ミュージアム」と決定。	
1996年 平成8年	4月1日より富沢遺跡保存館の管理・運営は仙台市より委託された(財)仙台市歴史文化事業団があたることとなり、その組織ができた。建築工事および展示工事が3月に完了。また、遺構保存処理作業は8月、「氷河期の森」の造成工事は8月、植栽工事は10月に完了。11月2日に開館する。	
1997年 平成9年	5月18日 天皇皇后両陛下ご来館。	
1998年 平成10年	3月7日 入館者10万人達成。	
2000年 平成12年	4月15日 入館者20万人達成。	山田上ノ台遺跡の活用整備のために「縄文の森広場基本計画策定委員会」が設置される。
2002年 平成14年	8月24日 入館者30万人達成。	第3次発掘調査により後期旧石器時代の石器が多数発見される。

2004年 平成16年	4月1日 管理・運営する(財)仙台市歴史文化事業団が(財)仙台市市民文化事業団に統合されたことにより、事業団が指定管理者となる。	「仙台市縄文の森広場」の建設工事が始まる。
2005年 平成17年	5月19日 入館者40万人達成。	
2006年 平成18年		「仙台市縄文の森広場」が完成。7月15日に開館する。
2007年 平成19年	9月11日 入館者50万人達成。	7月15日 開館1周年記念イベント開催(記念植樹や演奏会などで祝う)。
2009年 平成21年		5月4日 入館者10万人達成。
2010年 平成22年	6月12日 入館者60万人達成。	
2011年 平成23年	3月11日 東日本大震災により休館。	
	6月14日 再開。	4月12日 再開。
2012年 平成24年	4月1日 管理・運営する(財)仙台市市民文化事業団が公益法人となる。	
		8月7日 入館者20万人達成。
2013年 平成25年	9月14日 入館者70万人達成。	
2015年 平成27年		11月3日 入館者30万人達成。
2016年 平成28年	6月12日 入館者80万人達成。	
2017年 平成29年	2月18日・19日 地底の森ミュージアム 開館20周年・仙台市縄文の森広場 開館10周年を記念して、シンポジウムを開催。	
2018年 平成30年	9月22日 入館者90万人達成。	
2019年 平成31年		4月30日 入館者40万人達成。
2020年 令和2年	4月11日～5月17日 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館。	
2021年 令和3年	3月26日～5月11日 8月30日～9月12日 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため臨時休館。	

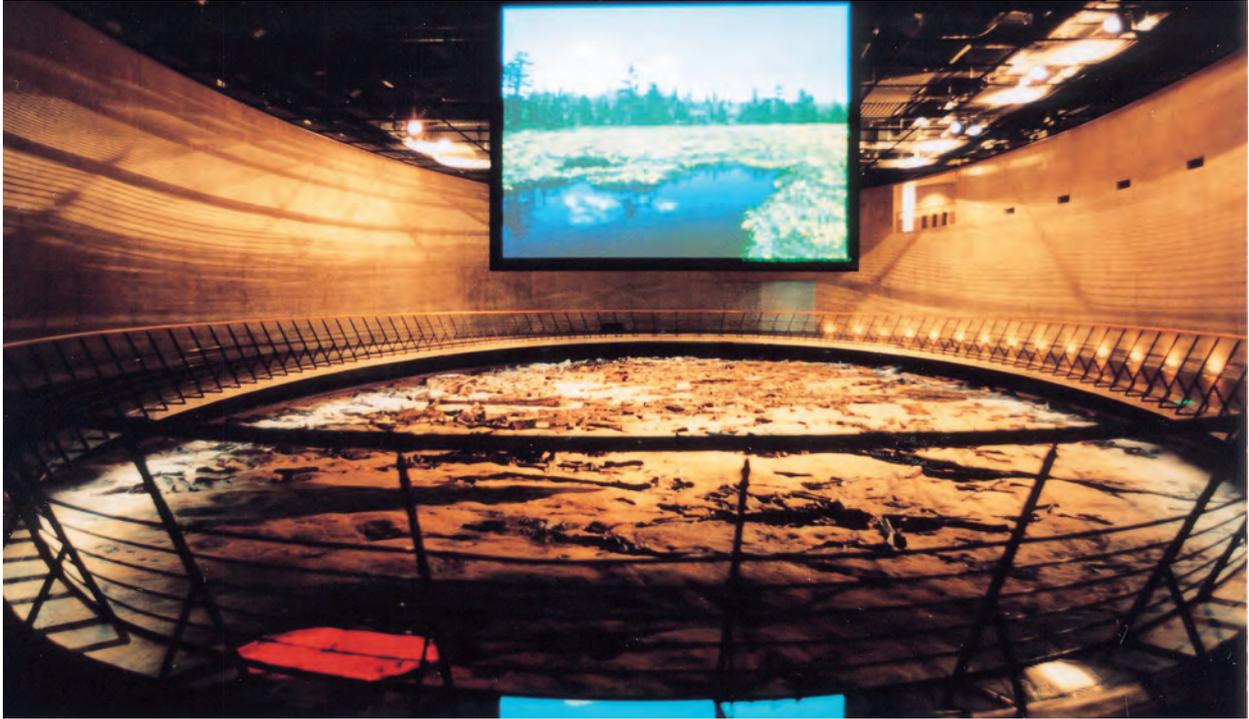


地底の森ミュージアム キャラクター
富沢博士



仙台市縄文の森広場 キャラクター
ハナちゃん

[地底の森ミュージアム]



地下展示室



外観



1階展示室

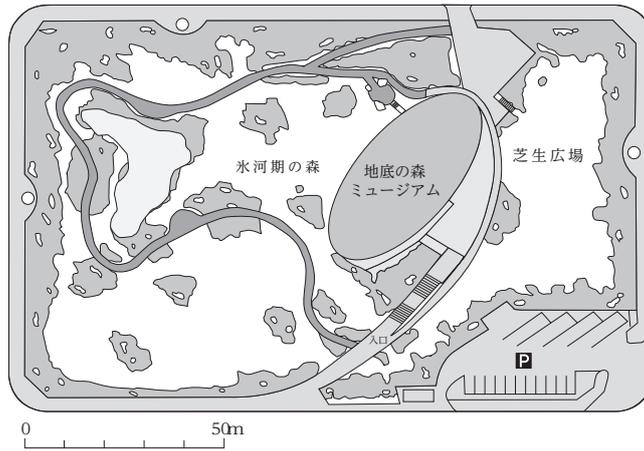


氷河期の森(春)

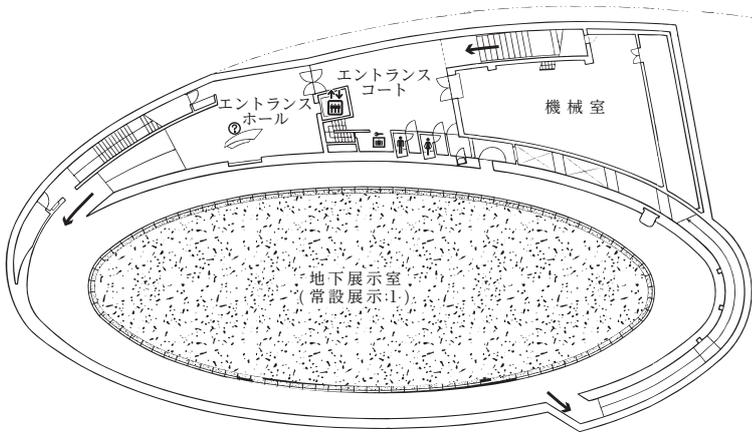
各室面積表

(㎡)

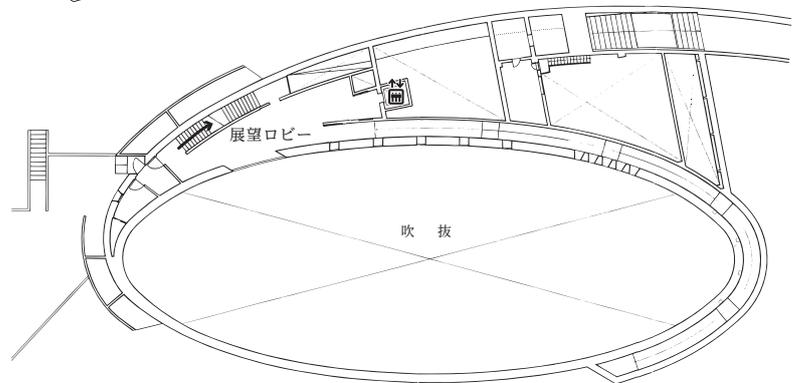
地下	<ul style="list-style-type: none"> 地下展示室(常設展示1) エントランスホール エントランスコート(半野外) トイレ 倉庫 機械室 E Vシャフト その他 	916 113 76 9 15 185 6 14
地下 中地下	<ul style="list-style-type: none"> スロープ 階段 	124 31
中地下	<ul style="list-style-type: none"> 展望ロビー E Vシャフト その他 	74 6 59
1階	<ul style="list-style-type: none"> 1階展示室 企画展示室 展望ラウンジ 研修室 事務室・学芸室 収蔵庫 荷解室 自販機スペース ボランティア室 廊下 階段ホール トイレ エントランス 守衛室 機械室 E Vシャフト その他 	311 87 170 78 99 58 17 6 7 28 81 45 7 6 40 6 18
ピット階 (21㎡)		21
計		2,743㎡



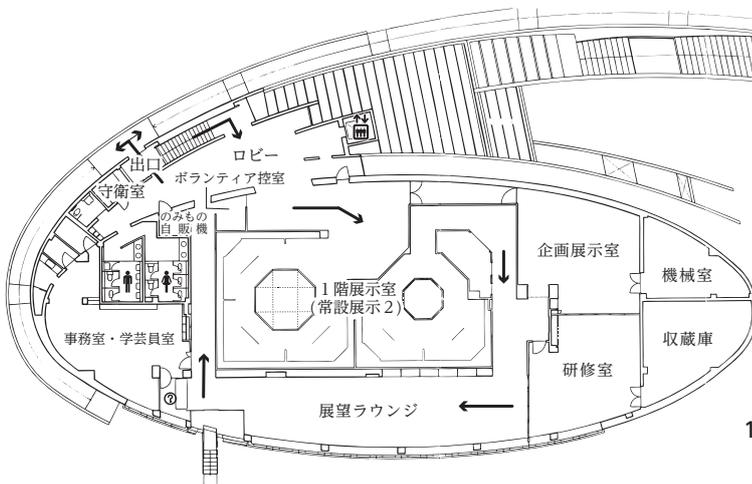
全体図



地下平面図



中地下平面図



1階平面図

[仙台市縄文の森広場]



縄文ムラゾーンとガイダンス施設



展示室



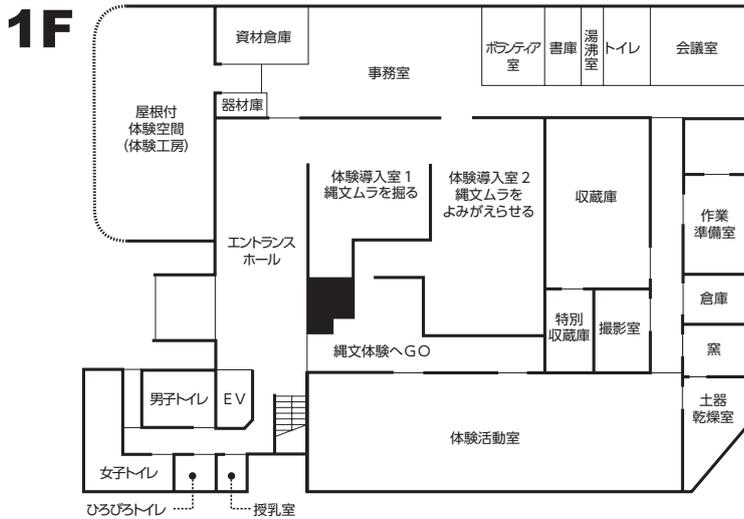
エントランスホール



体験活動室



展望休憩室



ガイダンス施設平面図

各室面積表

	(㎡)
体験導入室	207.93
体験活動室	160.58
屋根付体験空間	98.70
展望休憩室	69.90
収納庫	81.19
ボランティア室	17.10
事務室	68.08
会議室	25.42

4. 整備の目的と基本方針

地底の森ミュージアム

<p>設置の趣旨・目的</p>	<p>仙台市では富沢遺跡第30次調査の貴重な成果から調査対象地区を保存するとともに、積極的に公開・活用していくこととし、樹木やたき火跡を大地から切り離さずそのままの姿で保存処理をして展示・公開する「富沢遺跡保存館」と、発見された樹木などをもとに旧石器時代の植生を復元する「氷河期の森」を一体的に整備した。</p> <p>仙台市富沢遺跡保存館は、この保存された富沢遺跡の活用をとおして、主に旧石器時代の歴史や文化の理解を深めることをねらいとしている。</p>
<p>基本的性格・基本方針</p>	<p>①富沢遺跡保存館は、世界的にも貴重な富沢遺跡の歴史的価値を人類共通の遺産として保存しながら、積極的に公開・活用し、市民が誇れる施設とする。</p> <p>②富沢遺跡保存館は、旧石器時代を中心としたテーマミュージアムである。ここでは発掘された2万年前の樹木やたき火跡を現地で保存処理して公開するとともに、発見された遺物などとおして当時の環境と人類の活動を生き生きとよみがえらせ、それを世界的な視野の中に位置付ける活動を行っていく。</p> <p>③富沢遺跡保存館の野外展示である「氷河期の森」では、富沢遺跡の調査から判明した氷河期の植生を再現し、自然の悠久なる偉大さが臨場感豊かに伝わるよう展示するとともに、市街地の中のオアシスとして市民に憩いの場を提供する。</p> <p>④富沢遺跡保存館は、来訪者に富沢遺跡がもつ歴史的な魅力をダイナミックに伝えるとともに、学校教育活動との緊密な連携を図りながら、生涯学習の視点から市民の発展的な創造力の涵養を積極的に支援する施設とする。</p>
<p>収蔵資料</p>	<p>当館の建設された経緯から、富沢遺跡から出土した仙台市教育委員会が所蔵する資料のうち、常設展示に関する資料及び旧石器時代に関する資料を借用し保管している。特に、富沢遺跡出土の球果や葉などの植物化石、シカのフンは大型冷蔵庫に収納するなど、資料の日常的な管理作業を必要とする。</p> <p>【常設展示関係資料】</p> <p>①人工遺物</p> <ul style="list-style-type: none"> ○富沢遺跡第30次調査27層出土石器 111点 (K63～K167c) ○富沢遺跡第30次調査27層出土チップ 137点 ○富沢遺跡第30次調査25層など出土チップ 81点 ○富沢遺跡第8次調査出土縄文土器 1点 (A-1) ○富沢遺跡第30次調査出土石匙 1点 (K-30) ○富沢遺跡第30次調査出土弥生土器 1点 (B-5) ○富沢遺跡第30次調査出土石庖丁 1点 (K-25) ○富沢遺跡第30次調査出土須恵器坏 1点 (E-6) <p>②自然遺物</p> <ul style="list-style-type: none"> ○富沢遺跡第30次調査27層検出炭化物 1箱 (テンバコ32) <p>③模型・剥製</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人類頭骨模型 9点 ○シカ剥製(成獣、幼獣) 3体 <p>④富沢遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献</p>

【保管資料】

①富沢遺跡出土遺物

- 富沢遺跡第30次調査25～27層出土植物化石 2,091点
- 富沢遺跡第30次調査25層出土フン 21ブロック
- 富沢遺跡第58次調査21～41層出土植物化石 398点
- 富沢遺跡第63次調査21～25b層出土植物化石 52点
- 富沢遺跡第66次調査33～35層出土植物化石 25点
- 富沢遺跡第68次調査24・26層出土植物化石 20点
- 富沢遺跡第88次調査9～13層出土植物化石 2,663点
- 富沢遺跡第88次調査9～11層出土フン 42ブロック
- 富沢遺跡第90次調査25～27層出土植物化石 1,525点
- 富沢遺跡第90次調査25層出土フン 20ブロック

②近隣遺跡出土遺物（仙台市指定有形文化財）

- 春日社古墳出土革盾 1点
- 春日社古墳出土鉄矛 1点
- 春日社古墳出土鉄鏃 1束（15本）

③寄贈図書

- 博物館及び教育委員会 など

④購入図書

- 定期購読図書：月刊文化財発掘出土情報・月刊考古学ジャーナル・月刊文化財・考古学雑誌・旧石器考古学 など
- 一般図書：旧石器時代・考古学・人類学・植物学などの関連図書 など

⑤イラスト及び版画 制作：細野修一

- 特別企画展関係 54点
- その他常設展示関係など 4点

⑥その他

- 二階堂亮氏寄贈：石斧1点や文献・写真など計24点（平成9年4月17日受）
- 高橋政治氏寄贈：日本国内及びニュージーランドの土器約50点、石器約330点など計約400点（平成14年8月19日受）
- 二階堂亮氏寄贈秋保電鉄旗立駅関連図面写し計4点（平成21年5月28日受）

仙台市縄文の森広場

<p>設置の趣旨・目的</p>	<p>遺跡の整備は、地域社会あるいは都市空間のなかで、具体的な活用の姿を示し、社会的・文化的役割を担うことを目的とし、縄文ムラの復元によって、都市の歴史的背景の一端を共有できる空間と、体験活動を通して人と自然との関わりを知ることにより、創造的な市民の意識がはぐくまれる空間を創り出す。</p>
<p>基本的性格・基本方針</p>	<p>【整備の基本方針】</p> <p>①遺跡の保存整備：遺跡の保存状態を良好に維持し、後世に伝える。</p> <p>②縄文ムラの復元整備：縄文時代中期末葉を復元対象の時期として東地区に竪穴住居を数棟作り、継続的な発掘調査の成果を活かしながら、西地区を含めてその変遷を追うように建て替えを行ってムラの変化を示す。また、環境復元は現状の植生を考慮して行う。</p> <p>③市民の憩いの場としての整備：縄文人の生活した場所であることが体感できる市民の憩いの場としての整備を行う。</p> <p>④体験活動の場としての整備：ガイダンス施設や体験活動を行う場を整備する。</p> <p>⑤発掘調査の場としての整備：山田上ノ台遺跡の未調査地区を主な対象とした計画的な発掘調査を継続して行い、その成果を基に整備を行う。</p> <p>【活動の基本方針】</p> <p>①体験活動：山田上ノ台遺跡の調査成果及び保存整備の意義を導入として、縄文人の生活と技術をテーマとする体験活動を展開する。体験活動は継続的な発掘調査と生活と技術の復元調査の成果をもとに充実していく。</p> <p>②発掘調査：体験活動を兼ねた発掘調査を行い、山田上ノ台遺跡の全体像を明らかにする。</p> <p>③情報の発信・受信・交流：体験活動の情報や縄文時代を中心とする発掘情報を広く市民に提供する。</p> <p>④講座・教室の開催：体験活動に関する内容を主とし、縄文時代の生活などを紹介する講座や新しい体験メニューを実践する教室を開催する。</p> <p>⑤学校・生涯学習施設との連携：学校との連携によって、小中学校などを対象とした体験学習を授業で積極的に行う。また、地底の森ミュージアムや市民センターなどの生涯学習施設と連携した活動を行う。</p> <p>⑥教職員対象講座の開催：小中学校の教職員を対象に、社会科、歴史、総合学習などの授業に関する支援と学習の場を提供する。</p> <p>⑦ボランティアの育成と支援：ボランティアの育成を行い、多様なボランティア活動を支援する。</p> <p>⑧地域住民との連携：山田地区の市民を対象に、山田上ノ台遺跡の重要性を理解し、活用してもらうためのさまざまな活動を行う。</p> <p>⑨資料収集・保管：調査・研究に関わる文献や資料の収集・整理と、遺跡出土遺物の保管を行う。</p>
<p>収蔵資料</p>	<p>当館は建設の経緯から、仙台市教育委員会でも蔵する山田上ノ台遺跡に関する常設展示資料、及びその他の出土資料を借用し、保管している。</p> <p>【常設展示関係資料】</p> <p>①人工遺物</p> <ul style="list-style-type: none"> ○山田上ノ台遺跡出土縄文時代の資料 土器40点・石器141点・土製品7点 ○山田上ノ台遺跡出土旧石器時代の資料 石器11点 <p>②山田上ノ台遺跡発掘調査関連資料・写真資料・文献</p>

【保管資料】

①山田上ノ台遺跡出土遺物

- 山田上ノ台遺跡第1次調査 旧石器時代の資料(テンバコ32)3箱・登録縄文土器344点・円盤型土製品1059点・土器破片99点・石鏃270点・石匙62点・石錐79点・篋状石器38点・その他石器9467点・石核(テンバコ32)2箱・凹石393点・礫石器(テンバコ32)6箱・磨製石器688点・焼礫(テンバコ32)6箱・石皿14点・扁平石(テンバコ32)5箱・打製石斧5点・磨製石斧40点・石製円盤11点・砥石12点・石刀3点・石剣1点・石棒1点・块状耳飾1点・登録土師器63点・土師器破片(テンバコ32)2箱・登録須恵器13点・須恵器破片(テンバコ32)2箱・陶磁器72点・釘68点・鏡1点・金属製品16点・木製品2点・墓石1基・石碑1基・人骨(テンバコ32)5箱・未整理(テンバコ32)1箱・土壌サンプル(テンバコ32)1箱
- 山田上ノ台遺跡第2次調査 旧石器時代の資料(テンバコ16)1箱
- 山田上ノ台遺跡第3次調査 石器(テンバコ32)2箱・接合資料26点・礫石器(テンバコ32)6箱・縄文土器(テンバコ32)1箱・炭化物(テンバコ32)1箱・土壌サンプル(テンバコ32)12箱
- 山田上ノ台遺跡第4次調査 未整理遺物(テンバコ32)5箱

②縄文関連遺跡出土遺物

- 下ノ内浦遺跡 遺物40点・パネル2枚
- 伊古田遺跡 遺物47点・パネル1枚
- 上野遺跡 遺物13点
- 王ノ壇遺跡 遺物4点
- 下ノ内遺跡 遺物2点・パネル2枚
- 山口遺跡 遺物2点
- 六反田遺跡 遺物2点・パネル1枚
- 大野田遺跡 遺物20点 パネル2枚
- 北前遺跡・高柳遺跡・三神峯遺跡・鍛冶屋敷遺跡 各1点

③寄贈図書

- 博物館及び教育委員会 など

④購入図書

- 定期購読図書：月刊考古学ジャーナル・月刊文化財・博物館研究 など
- 一般図書：縄文時代・考古学・博物館学 など

[地底の森ミュージアム]

1. 令和2年度事業報告

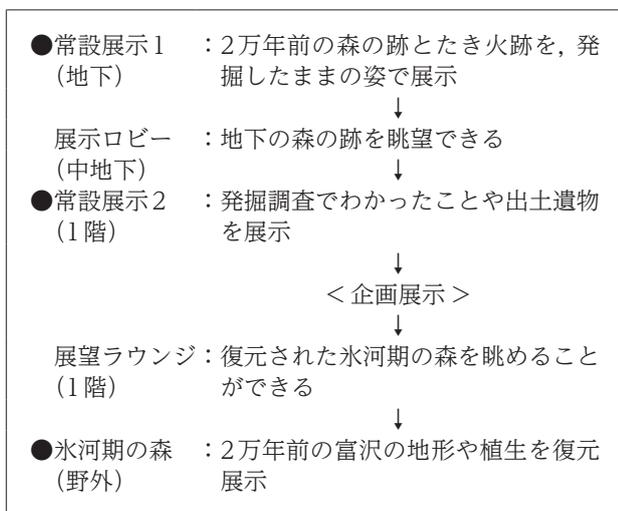
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年度事業は中止や延期、内容変更など大幅な見直しが必要となった。以下では、事業の実施状況・内容等の実績報告として記載した。そのため、昨年度刊行した『地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報2020』に掲載した実施計画とは異なっているところがある。

(1) 展示事業

① 常設展示

i) 展示の構成

来館者は、最初に地下の「常設展示1」で、発掘された2万年前の森の跡と人類の生活跡を見学する。次に発掘調査の成果を「常設展示2」を通して理解し、さらに企画展を開催している場合はこれを見学する。そして、最後に保存館より外に出て、復元された旧石器時代の森の中を散策しながら楽しめるように構成されている。なお、館内の展示サインは日本語・英語・中国語・韓国語の4ヶ国語表記としている。



ii) 展示の方法とねらい

現地保存型の遺跡博物館施設としての特徴を生かし、常設展示1で最初に2万年前の遺跡そのものを見ることから始まる展示構成は、来館者におおむね好評である。団体の見学も多く、展示説明を希望される場合は、職員及びボランティアが館内の説明を行いながら一緒にまわっている(新型コロナウイルス感染拡大対策として、ボランティアスタッフによる展示解説活動は自粛した)。野外展示は、環境学習の場として活用が広がるとともに、鳥類や両生類、

昆虫類が来訪および生息する地域の緑地として機能している。

○常設展示1(地下展示室)

・展示：900㎡の楕円形の大空間に広がる「本物」の遺跡と、壁面に広く映し出される湿地林の風景や昇降式スクリーンでの復元映画の放映などによる演出により、富沢の環境と旧石器人の活動のようすを伝えている。

・保存公開：地下の展示室では、温湿度の設定値の調整、地下水位については排水ポンプの調整によって、保存・公開に適した状態を維持することに努めた。室内は湿度70%以上を保つようにしているが、外気の湿度の影響を受けることもあったため、平成10年に地下展示室への出入口4ヶ所に扉(自動扉2ヶ所を含む)を設置する工事を行い、湿度の安定を図った。保存処理及び管理については、(株)C&P研究所に委託し、仙台市教育委員会と当館の三者で打合せを行いながら進めた。その際、東北大学工学研究科附属超臨界溶媒工学研究センターの猪股宏氏、東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科の米村祥央氏の指導・助言を得た。

※中地下に設置している遺跡スコープは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館後も使用を中止している。

○常設展示2(1階展示室)

・展示：展示の構成は、順に a. 氷河期へのいざない、b. 富沢での人類の活動をテーマとする展示、c. 富沢の自然環境をテーマとする展示、d. 復元画と立体映像による展示となっている。b・cでの「富沢博士」が謎解きをしながら調査でわかったことを説明していく展示方法や、全体をとおして映像や模型、グラフィックパネルなど、視覚的な面を重視した展示は、大人から子どもまで楽しめる内容となっていて、小・中学生の学習活動に利用されるなど、好感をもたれている。特に、3Dの立体映像とジオラマ模型を組み合わせた展示は子どもたちに人気が高い。

○野外展示

・植生：仙台周辺には自生していない植物が多いことから、仙台市教育委員会と当館が打合せを行いながら、植生の維持と管理に努めている。その際には東北大学名誉教授の鈴木三男氏、東北大学植物園の牧雅之氏らから助言・指導をいただきながら進めている。また、植物の生態調査については、高木調査のみ東北大学への委託研究として実施した。

② 企画展示

◎特別企画展

新型コロナウイルス感染拡大のため、県外からの資料借用が困難となるなどしたため、通常企画展として規模を縮小して実施し、以下に第94回企画展として報告する。

◎企画展

i) 第92回企画展「仙台の遺跡めぐり きみのまわりの旧石器」

○会期：5月19日(火)～7月19日(日)

○開催日数：52日間

○入館者数：2,943人

○会場：企画展示室

○展示内容：仙台市内でみつかった上ノ原山遺跡や川添東遺跡などの旧石器時代の遺跡と、その遺跡から出土している石器を中心に紹介した。また、トピックスとして石器の観察の仕方(実測図)や旧石器時代の環境、接合石器などを紹介する展示も行った。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター(カラー) B2 700枚, チラシ(表面カラー・裏面1色) A4 8,000枚



第92回企画展ポスター



第92回企画展展示

○関連行事

・ 関連講座「遺跡からみる旧石器時代の仙台」

日時：7月11日(土) 13:30～15:00

講師：木村恒氏(仙台市教育委員会文化財課)

会場：研修室

参加者：19人



第92回企画展関連講座

・ ギャラリートーク

日時：6月28日(日) 13:30～14:30

講師：当館職員

参加者：10人

・ 関連イベント「旧石器を知る！！」

日時：7月12日(日) 10:00～12:30

会場：研修室

参加者：7人

ii) 第93回企画展「縄文あにまる～つくる・つかう～」

○会期：8月4日(火)～10月18日(日)

○開催日数：65日間

○入館者数：5,720人

○会場：企画展示室

○展示内容：宮城県内の遺跡から出土している、縄文時代の動物土製品や動物のモチーフがつけられている土器片、動物の骨や角を利用した道具などを展示し、縄文時代の人々が動物をどのように表現し、利用していたのかについて興味関心を持ってもらい、理解や知識を深めてもらう展示とした。関連イベント「親子で知ろう！縄文あにまる」、関連講座「アートで“縄文あにまる”」を実施した。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター(カラー) B2 500枚, チラシ(表面カラー・裏面1色) A4 3,000枚



第93回企画展ポスター

○関連行事

- ・ 関連講座「アートで”縄文あにまる”」

日時：9月5日(土) 13:30～15:00

講師：根本裕子氏(陶芸家), 井上幸路氏(美術批評家)

会場：研修室

参加者：14人



第93回企画展関連講座

- ・ 関連イベント「親子で知ろう！縄文あにまる」

日時：8月9日(日), 8月16日(日), 8月23日(日), 9月22日(火・祝) 各①10:00～11:00 / ②13:30～14:30

講師：当館職員

会場：研修室・芝生広場

参加者：のべ8組17人(8月9・16日は申込なく中止)



第93回企画展関連イベント

iii) 第94回企画展「発掘！むかしのみやぎめし」

○会期：11月13日(金)～1月11日(月・祝)

○開催日数：41日間

○入館者数：2,131人

○会場：企画展示室

○展示内容：仙台市内の遺跡と東松島市里浜貝塚で出土した、縄文時代から近世までの資料を取り扱った。過去の食材を示す貝殻・骨、植物の種子・殻とともに食に関わる調理用具や食器などの出土資料を中心に、宮城県を代表する米やマグロ・サメなどの食材、餅や茶等の食事、食器の変遷などを紹介した。

○展示構成：出土資料および写真・文字パネルによる展示

○印刷物：ポスター(カラー) B2 500枚, チラシ(表面カラー・裏面1色) A4 3,000枚, パンフレット(16ページ・カラー) A4 1,000部

○広報：市政だより・ホームページ・各種広報誌などにより宣伝を行った。また、ポスター・チラシを関係機関・各所に配布した。

○協力機関：奥松島縄文村歴史資料館, 仙台市教育委員会



第94回企画展ポスター



第94回企画展展示

○関連行事

- ・ 関連講座「旧石器人の食事と栄養」

日時：12月12日(土) 13:30～15:00

講師：山田しょう氏(ハーヴァード大学 Ph.D.)

会場：研修室

参加者：20人



第94回企画展関連講座

- ・ ギャラリートーク

日時：①11月21日(土) 13:30～14:30

②1月9日(土) 13:30～14:30

講師：当館職員

参加者：①5人, ②4人

- ・ 体験イベント「マイ箸づくり」

日時：①11月29日(日) 11:00～12:00

②12月6日(日) 11:00～12:00

③1月9日(土) 11:00～12:00

会場：研修室

参加者：①9人, ②11人, ③8人

iv) 第95回企画展「もりの風景2020」

○会期：2月2日(火)～3月14日(日)

○開催日数：33日間

○入館者数：1,979人

○会場：企画展示室

○展示内容：令和2年度に地底の森ミュージアムで開催した事業やイベントを振り返る企画展。今回は、富沢遺跡の復元画を手掛けた細野修一氏のイラスト原画の展示や、地底の森ならではのフォトスポットコーナーを設置した。また、来場キャンペーンとして、細野修一氏の描いた動物のイラストを探してクイズに答える「どうぶつはっけん!」や、フォトスポットで撮影した写真を来館者のSNSで公開する「SNS写真館」を開催し、参加者にはオリジナルシールを配布した。

○印刷物：ポスター(表面カラー) A3 50枚, チラシ(表面カラー) A4 2,500枚, オリジナルシール 5cm×5cm 3,000枚



第95回企画展ポスター



第95回企画展展示

○関連行事：

- ・ 関連イベント「水河期の森のフォトフレームづくり&森の撮影会」

日時：2月20日(土) 10:30～12:30

会場：研修室, 野外展示「水河期の森」

参加者：7人

・関連イベント『紙芝居「冒険しんちゃん地底のたび」&絵本「跡」手話通訳付き上演会』

日時：3月14日(日) 13:30～14:30

協力：仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会、読み聞かせボランティア「ののはな」

会場：研修室

参加者：14人

(2) 普及啓発事業

① 学校教育との連携

i) 利用状況

令和2年度の総入館者数における小・中学生の割合は21%であり、そのうちの81%が学校利用であった。仙台市内の学校の利用状況を見てみると、小学校は、例年多かった4月から6月の利用は無く、7月と9月に集中した。中学校の利用は職場体験の3校のみであった。

ii) 利用学習

仙台市内の小・中学校と連携して授業を実践する事業である。各校における博物館活用を、当館と縄文の森広場の職員とボランティアが授業を行う形で実施してきた。年度当初は申込校よりキャンセルが相次ぎ、7月に5校、再募集した9月に4校の計802人が当館を利用した。いずれも小学6年生の利用であった。密集、密接を避けるため、4つのグループに分け「地下展示見学」「1階展示見学」「石器使用体験」「狩人登場」の4つの学習プログラムをローテーションする形で実施した。



利用学習

iii) 職場体験活動

市内中学校からの職場体験活動の申し込みに基づき、3校15人の中学生を受け入れた。1回につき3日間4～6人程度を受け入れて実施した。体験内容は、館内掲示物の作

成、図書整理、野外展示の巡回・記録撮影などである。

iv) 博物館学芸員課程実務実習

県内の大学に通う学生、もしくは県外の大学に在籍する宮城県内出身の学生を中心に希望者(最大定員12人)を受け入れている。9月9日(水)～9月13日(日)の期間に、尚絅学院大学3人、東北学院大学3人、宮城学院女子大学1人、東北芸術工科大学2人、東京農業大学1人、石巻専修大学1人、お茶の水女子大学1人、計12人が参加した。実施にあたっては、6人ずつ午前と午後に分かれて実習を行うなどの感染対策を講じた。



博物館学芸員課程実務実習

v) 教職員機関研修

学校教育との連携を推進するため仙台市教育センターの機関研修として、縄文の森広場と合同で行っている。夏休み期間が短かったこともあり、実施時期を8月7日から9月25日に変更したが、申込はなかった。

vi) 学生サポーター

博物館における接遇経験や社会人としての意識を養うことを目的として、仙台市近郊の大学生有志にサポーターとして登録してもらい、当館が実施するイベント等を補助してもらった。新型コロナウイルス感染拡大防止のため活動実績はなかったものの、1大学9人(東北学院大学)の登録があった。

② 各種普及活動

i) 体験学習

旧石器時代のテーマミュージアムとして、石器づくりを主とした旧石器時代の生活技術について、体験を通して学ぶ事業などを積極的に実施した。また、水田遺構が多数発見されている富沢遺跡の特徴を紹介する体験教室「親子でつくろう古代米」など、指定管理業務以外にも自主財源事業を実施した。

○たのしい地底の森教室

企画展の展示解説、関連イベントや、富沢遺跡や野外展示「氷河期の森」に親しみをもってもらう体験イベントなど、来館者が当館に親しみをもってもらえるような体験や講座を実施した。事業例としては、「仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会」の協力による地底の森ミュージアムをテーマにしたオリジナル紙芝居の上演や、野外展示「氷河期の森」の風景を撮影して、森の素材で装飾したフォトフレームに飾るイベントなどを行った。なお、5月のゴールデンウィークの回などが中止となり、計14回開催した。

日時：6～3月 月1～2回程度の土・日・祝
 場所：地下展示室・研修室・企画展示室・展望ラウンジ・
 野外展示「氷河期の森」他
 参加者：延べ 112人



たのしい地底の森教室

○体験！発見！地底の森

地底の森フェスタ2020・たのしい地底の森教室の内容及び開催日程を変更し、「体験！発見！地底の森」として4日間に日程を分散させ、日替わりメニューの体験活動を行った。基本的に事前申込制で実施した。事業の内容等についてはボランティア会と企画をたて、事前準備作業はボランティア会の協力を得ながら実施した。実施にあたっては、仙台市立仙台工業高等学校模型・動画部、仙台の昔を伝える紙芝居作り・上演実行委員会にも協力いただいた。

日時：10月10日(土) 10:00～16:00
 内容：「秋の「氷河期の森」ガイド&写真撮影」「みんなでつくろう！松ぼっくりのハロウィンツリー」
 日時：10月11日(日) 10:00～15:30
 内容：「館長と緑と遺跡を歩く会」「氷河期の森のケーキ屋さん」
 日時：10月18日(日) 10:00～15:30
 内容：「やり投げ大会」
 日時：10月25日(日) 10:00～15:15
 内容：「石器でおはしづくり」「紙芝居上演 冒険しんちゃ



体験！発見！地底の森(やり投げ大会)

ん地底のたび」

参加者：延べ127人

○体験コーナー「石器をつかってみよう」

日時：日曜・祝日の13:00～15:00
 対象：当日の入館者
 内容：実際に紙を切って、石器の切れ味を体験してもらう。
 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、令和2年3月1日以降休止継続中。

○体験教室「親子でつくろう古代米」

事業団の自主事業。古代米(紫黒米)の栽培・収穫をとおり、農業の歴史を実体験として感じてもらうことを目的とした。さらに館隣接地での栽培により、地域住民などとの交流を図ることで、当館が市民協働・連携など、地域活性化の拠点となることを目標とした。

5月16日(土) オリエンテーション・田植え【中止】
 6月13日(土) 石庖丁づくり 参加者：18人
 7月18日(土)・19日(日) 弥生土器づくり 参加者：19人
 9月19日(土) 稲刈り 参加者：17人
 9月26日(土) 土器焼き(任意参加) 参加者：10人
 11月3日(火・祝) 収穫祭 参加者：11人



親子でつくろう古代米(稲刈り)

地底の森ミュージアム

○古代米の稲わらで正月飾りづくり

栽培した稲わらを活用し、野外展示「氷河期の森」の植物を利用して、正月飾りの飾り付けを体験する事業を行い、古代米づくりの活動の紹介や古代米の販売を促進した。

日時：12月19日(土) 13:30～14:00, 14:30～15:00

会場：研修室

参加者：延べ18人

○2020 森の響き

事業団の自主事業。地域の方々が気楽に参加しやすい形で、当館をより身近に感じられるよう、継続性を持った事業展開を意識し、地域の団体や組織との連携をさらに進めることを目標に実施した。

令和2年度は、演奏を核とし、宮城県仙台三桜高等学校音楽部が、閉館後の地下展示室で演奏した。実施にあたっては、事前申込で観客数制限・規制退場など感染予防に十分に配慮した。

10月24日(土)に実施を予定していたが、出演者の都合で急遽中止しなければならなくなったため、下記日程で実施した。また、地域との連携を深めていく場として、令和元年度同様長町商店街のPUBLIC. COFFEE & BARに飲食コーナーを委託していたが、飛沫感染防止のため中止した。

日時：1月30日(土) 17:30～18:00

会場：地下展示室

参加者：55人



2020 森の響き (仙台三桜高等学校音楽部)

○ミュージアム・シアター「狩人登場」

事業団の自主事業。演劇の手法を通じて当館の展示をより理解してもらう「ミュージアム・シアター」として、劇団「短距離男道ミサイル」の劇団員が、旧石器時代の狩人に扮して館内外に登場した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、来館者との接触や交流を中心としたこれまでの手法ではなく、鑑賞型として一定の距離を取った上で、学

校団体や一般来館者向けに実施した。

開催期間：7～9月(夏季バージョン), 11～3月(冬季バージョン)

回数：25回



狩人登場 (一般来館者向け)

○映像・記録発信事業「地底の森アーカイブス」

事業団の自主事業。記録撮影にまつわるワークショップを開催し、参加者一人一人が思う当館の魅力を撮影してもらった。それらの写真や動画は、館内展示、YouTube・SNS・ホームページ等での公開に活用するとともに、大切な記録として館内で保管している。4つの動画作品を制作し、公開した。

「動画撮影ワークショップ」

日時：11月15日(日)①10:00～12:00

②12:00～15:00

講師：門傳一彦氏(映像クリエイター)

会場：研修室・野外展示「氷河期の森」

参加者：延べ16人

「動画撮影・編集ワークショップ」

日時：12月13日(日) 11:00～15:00

講師：門傳一彦氏(映像クリエイター)

会場：研修室ほか

参加者：5人

ii) 各種講座

○考古学講座

生涯学習事業の一環として、一般を対象に最新の研究成果を取り上げる講座を2回実施した。東日本大震災から10年目の節目を迎えることもあり、「地底の森特別講座ミュージアムと災害」と題して実施した。

第1回 「二度の噴火・津波で被災したアイヌコタンー17世紀の噴火湾の事例から学ぶこと一」

日時：2月6日(土) 13:30～15:00

講師：青野友哉氏(東北芸術工科大学芸術学部歴史遺

産学科 准教授)

会場：研修室

参加者：26人



第1回考古学講座

第2回 「震災・原子力災害に向き合う博物館—資料保全から地域と記憶の継承へ—」

日時：3月20日(土) 13:30～15:00

講師：内山大介氏(福島県立博物館 主任学芸員)

会場：研修室

参加者：18人



第2回考古学講座

○富沢ゼミ

富沢遺跡と近隣に所在する遺跡を中心に、地域の歴史や文化財を紹介する講座を実施した。

第1回 「遺跡さんぽ 長町あたりの最新発掘情報」

日時：12月18日(金) 15:00～16:30

講師：三浦一樹氏(仙台市教育委員会文化財課)

会場：研修室

参加者：17人



第1回富沢ゼミ

第2回 「進化する富沢遺跡の復元画—絵かき・細野修一とともに描いた世界—」

日時：2月19日(金) 15:00～16:30

講師：斎野裕彦氏(仙台市教育委員会文化財課)

会場：研修室

参加者：18人



第2回富沢ゼミ

iii) 市民文化財研究員

応募者4人を対象に、学芸員による講義や各種体験、遺跡見学会など、遺跡や考古学に関する学習支援を実施した。4月8日事業開始予定であったが、臨時休館が終わって6



市民文化財研究員(館外活動)

地底の森ミュージアム

月3日からの開始となった。1年間の活動成果として、自身で設定したテーマをもとに作成した3人分のレポートを当館ホームページにて公開している。

iv) ボランティア活動

ボランティア登録者は、昨年度からの継続者66人に、新規4人を加えて70人であった。臨時休館中は活動自粛を要請し、再開後も来館者との対面活動は実施せず、イベントの準備作業、野外展示の日常管理補助などの活動となった。1年間のイベント活動の延べ実績は259人、604時間であった。また、スキルアップを目的として、月例会前に当館学芸員によるミニ講座を3回と特別講座1回を実施した。



ボランティア活動のようす (植栽管理)

○ミニ講座

日時：1月10日(日)・2月7日(日)・3月7日(日)
13:00～13:30, 14:30～15:00



ミニ講座

○特別講座「旧石器人の食事と栄養」

日時：12月11日(金) 14:00～16:00
講師：山田しょう氏(ハーヴァード大学 Ph.D.)
会場：研修室
参加者：28人

v) 運営懇談会

当館に隣接する町内会・小中学校・市民センターなどの方々に参加を依頼し、館事業を紹介し、運営のあり方について意見交換を行う場である。新型コロナウイルス感染症拡大により実施しなかった。

vi) 長町まちかど教室

近隣の長町商店街が主催している事業で、商店街の店主やスタッフが講師となり、専門店のプロならではの「ワザ」「コツ」「まめ知識」を無料で紹介する企画である。まちかど教室自体が中止となったため実施していない。

vii) 出前対応等

○学校・市民センター等への出前

学校・市民センター等からの依頼を受け、出前対応を行い、地域貢献を図るとともに館の広報にも努めた。

- ・長町南小学校3年生 8月28日(金) 9:25～10:10
- ・大野田小学校職員研修
9月9日(水) 15:30～16:00
3月3日(水) 15:30～16:00
- ・オーエンス泉岳自然ふれあい館「親子チャレンジキャンプ」
9月19日(土) 13:00～16:00
- ・島根県立三瓶自然館「埋もれ木サミット in 大田」
10月3日(土) 13:00～17:00
- ・尚綱学院大学博物館経営論
12月15日(火) 16:10～17:40
- ・太白区中央市民センター「ながまち老壮大学」
1月15日(金) 10:00～11:30
2月19日(金) 10:00～11:30



出前対応(長町南小学校)



出前対応(オーエンス泉岳自然ふれあい館)

○学校・地域団体との協働事業
実施の機会がなかった。

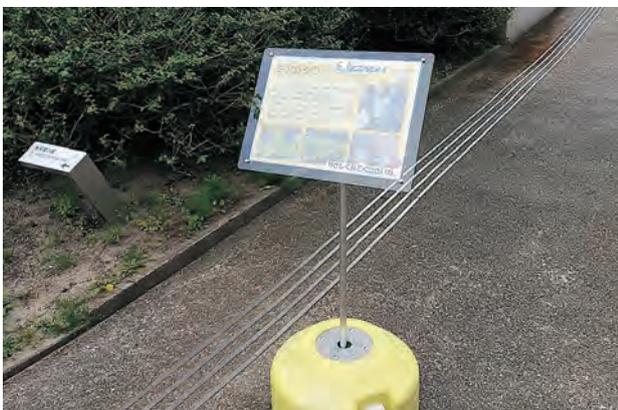
viii) 国際交流

大韓民国の全谷先史博物館より依頼を受けて、「漣川旧石器祭」(教育博覧会・国際ワークショップ)へのメッセージを当館 Facebook を通じて発信した。

ix) 新型コロナウイルス感染拡大を受けた情報発信

臨時休館中、野外展示「氷河期の森」を散策している皆様に植栽植物が展示品であり、貴重な資料であることを知っていただくことを目的に、花など見ごろを迎えている植物の名前や特徴等を紹介する表示を掲出した。またボランティアスタッフによる来館者への解説活動ができなくなったため、展示見学ポイントや遺跡の重要性などの概要をまとめた「みどころマップ」を配布した。

そのほか北海道博物館から始まったオンラインの取り組み「おうちでミュージアム」に参加し、当館 Facebook を通して「野外展示のようす」などの情報発信も積極的に行った。



植物案内表示

(3) 調査・研究事業

○遺跡に関する各種分析調査と遺跡保存

保存公開している遺跡の現状を把握し、問題への対処などを検討するために、10月と3月に保存処理検討会を開催した。検討会には、猪股宏氏(東北大学工学研究科附属超臨界溶媒工学研究センター)、米村祥央氏(東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科)を招き、遺跡の現状と今後の方向性に関して指導を受けた。併せて、保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的として、地下水位の測定ならびに分析も実施した。

学校法人東北芸術工科大学と、土壌表面の析出物及び藻類等についての共同研究を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大のため実施できなかった。3月、東北大学総合学術博物館に遺跡状態のデジタル記録化に向けて協力を求め、次年度以降への取り組みについて打合せを行った。

○研究報告の刊行

富沢遺跡保存館の調査研究活動の成果を発表し、これからの博物館運営に役立てることを目的として、『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2020』を刊行した。当館職員が「富沢遺跡の自然科学分析・調査について(2)植物遺存体と動物遺存体を中心に」「SMMA クロスイベント「きみも富沢博士!」3年間の実施報告」と題し、富沢遺跡の自然科学分析・調査の集成と SMMA クロスイベント「きみも富沢博士!」についての実施報告と課題について報告したほか、縄文の森広場職員1人の調査研究成果を掲載した。

2. 施設管理

(1) 定例保守

毎月1回保守点検日を設け、再委託業務仕様書に基づき建物・設備の定期保守点検を実施した。

(2) 施設・設備などの修繕

開館から24年を経過した施設・設備等に経年劣化による不具合が多発している中、緊急性を優先し修繕を行った。

- ①施設の雨漏れ対策：屋根・外壁等の目地及びびび割れ等のシーリング施工による修繕。
- ②受電及び非常用自家発電設備：異常値を計測した計器類の交換修繕。
- ③消防用設備：連結送水管の漏水箇所や定期点検で指摘

のあった設備の交換修繕。

- ④空調設備：機器・設備等の交換修繕を随時実施したが、地下展示室の温湿度管理部に不調があり、不安定な状態は改善されていない。
- ⑤トイレ設備：不具合が発生した器具類の交換修繕。
- ⑥野外：令和元年度の台風により流失した栈橋の撤去・修繕，池ろ過循環ポンプの交換修繕，園路の修繕，業務用駐車場の洗い場の修繕。
- ⑦令和3年2月に発生した地震等により被災した地下展示室の遺構修復及び展望ラウンジ天井等の修繕。

(3) 新型コロナウイルス感染症対策

「スタッフのマスク着用」「手洗い・うがい，アルコール消毒の励行」「消毒液を使用したこまめな清掃」「お客様との一定の距離の確保」「受付・案内での透明アクリル板の設置，料金やチケットのトレーでの受渡し」等の感染対策を講じた。特に展示室内およびトイレ等の来館者が手を触れる可能性がある場所は，定時でアルコール消毒を実施している。また来館者に対しても，手指消毒用アルコールの設置・マスクの着用（咳エチケット）・来館者同士の距離確保・入場制限・発熱や体調不良者の入館辞退を依頼し，感染拡大防止に努めた。

3. 利用状況

令和2年度の開館日数は255日，入館者数は17,134人であった。前年度入館者数(34,122人)と比べ16,988人の減となっている。4月11日から5月17日が新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館となり，4月・5月とも前年比8%以下，6月は30%以下であった。9月(113%)以外はすべて前年度を下回り，年間を通しほぼ60%代が続いた。

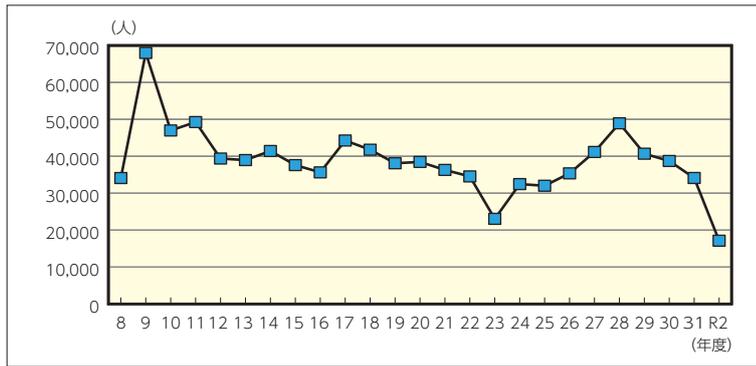
入館者の内訳を見ると，全体に占める有料入館者の割合は46%であった。その8割以上が一般，次いで小・中学生となっている。なお，平成8年11月2日の開館から令和2年3月31日までの総入場者数は968,590人である。

コロナ禍の中でも可能な，生涯学習活動へ積極的に取り組んだ。特に地域に根差し，活性化に資することを重視し，「体験！発見！地底の森」開催時の仙台工業高等学校模型・動画部との協働，ながまち老壮大学での講演，オーエンス泉岳自然ふれあい館への出前，近隣小学校職員向けの出前研修，長町南小学校低学年の校外学習における野外展示利用受入れ等である。小中学校と比べ関わりが希薄になりがちな高校と連携を深める「探求学習」は，昨年度同様に宮城県仙台三桜高等学校と開催した。職員が「感染症流行時の博物館の対策」についてオンラインで説明する授業を行った。

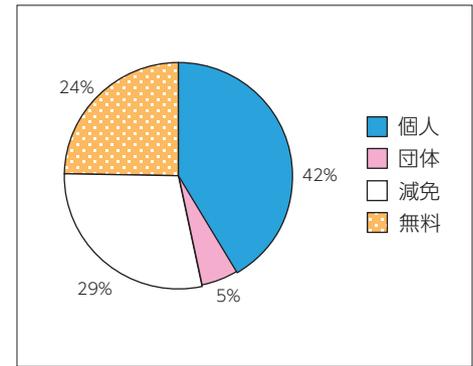
月別入館者数 (令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

月	有 料							無 料					合計
	個 人			団 体			小計	減 免			無 料 入館者	小計	
	一般	高校生	小・中学生	一般	高校生	小・中学生		一般	高校生	小・中学生			
4	38	2	2	6	0	0	48	10	0	7	154	171	219
5	136	1	1	6	0	1	145	45	0	34	152	231	376
6	458	11	12	21	0	0	502	156	0	188	262	606	1,108
7	848	10	10	37	0	1	906	173	0	760	378	1,311	2,217
8	1,027	18	49	40	1	2	1,137	159	0	258	494	911	2,048
9	881	8	105	99	0	170	1,263	153	0	658	658	1,469	2,732
10	802	13	22	56	0	177	1,070	249	0	344	406	999	2,069
11	787	4	32	53	0	35	911	522	20	240	241	1,023	1,934
12	338	1	1	18	0	1	359	119	0	65	324	508	867
1	442	4	1	19	0	0	466	150	0	206	373	729	1,195
2	608	8	11	36	0	0	663	127	0	124	369	620	1,283
3	454	13	5	7	0	0	479	118	0	91	398	607	1,086
計	6,819	93	251	398	1	387	7,949	1,981	20	2,975	4,209	9,185	17,134

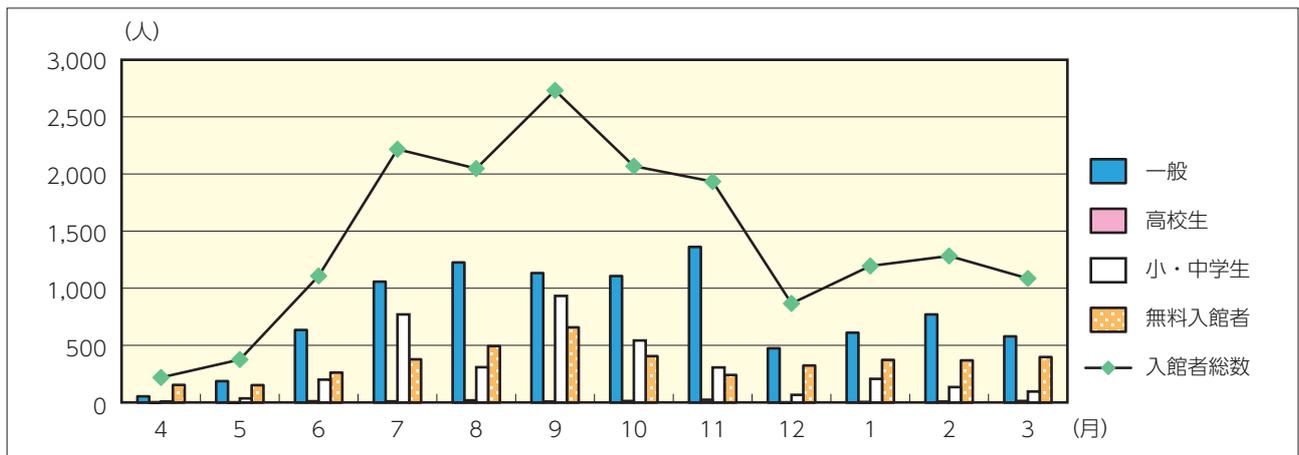
開館年度からの入館者数の推移



入館者内訳



月別入館者数



4. 入館者アンケート

常時所定の場所に設置し、毎日回収している。入館者からいただいた貴重な意見・提案については、その要望や意見への回答と改善について検討を行い、『お客様の声へのお答え』として展望ラウンジに設置した掲示板にお知らせしている。同時に要望や改善について、可能なものは迅速に対応するよう努めている。

令和2年度は臨時休館前に3人の方にご回答いただいたが、その後は新型コロナウイルス感染症の影響により休止しており、データ数が少ないため集計データは掲載しない。

5. 令和3年度事業計画

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、令和3年3月26日(金)～5月11日(火)・8月30日(月)～9月12日(日)が臨時休館となったため、計画していた事業の内容及び日程等を変更している。また、再開館後の事業についても内容・日程等を変更したものが多く、現時点での変更内容は【 】内に示した。

(1) 展示事業

① 常設展示

- i) 常設展示1 (地下展示室)
富沢遺跡の発掘調査面の展示
- ii) 常設展示2 (1階展示室)
出土資料をもとに調査成果を分かり易く解説した展示
- iii) 野外展示「氷河期の森」
2万年前の植生を復元した

② 企画展示

◎特別企画展

「発掘！食の百貨店」【規模を縮小し、第98回企画展に変更】

会期：10月29日(金)～12月19日(日)

内容：さまざまな食材を使い、素材の持ち味を活かした調理が、和食の特徴の1つと言われている。そのような現代の食につながる、いにしえの日本の食を紹介する。

○関連行事

- ・関連講座「よみがえる！古代の菓子と料理」

日時：12月4日(土) 14:30～16:00

講師：前川佳代氏(奈良女子大学大和・紀伊半島学研究
所 古代学・聖地学研究センター協力研究員)

会場：研修室

・ギャラリートーク

日時：11月27日(土) 13:30～14:30

講師：当館職員

◎企画展

i) 第96回企画展

「仙台の遺跡めぐり 富沢からのぞく仙台の歴史」

会期：4月23日(金)～6月27日(日)

【5月12日(水)～7月18日(日)に変更して実施】

内容：展示室の中で仙台の遺跡めぐりをする企画展。仙
台市内の各時代を代表する遺跡から出土した資料
を展示しながら、富沢遺跡についても紹介。

○関連行事

・関連講座「再発見！仙台の遺跡 ～発掘調査の変化と仙
台城跡・中在家南遺跡について～」

日時：5月23日(日) 13:30～15:00

【6月5日(土)に変更して実施】

講師：須貝慎吾氏、柳澤楓氏(仙台市教育委員会文化財課)

会場：研修室

・ギャラリートーク

日時：5月8日(土) 13:30～14:30

【6月12日(土)に変更して実施】

講師：当館職員 会場：企画展示室

・関連イベント「歩いてみよう！ 富沢周辺の遺跡」

日時：6月13日(日)

10:00～11:30, 13:30～15:00

講師：当館職員

ii) 第97回企画展「つなぐ・つながる富沢遺跡 ～につば
んのミュージアムめぐり～」【内容・日程を変更】

会期：8月6日(金)～10月3日(日)

内容：「旧石器時代」「埋没林」「遺跡博物館」など、当館
と共通点のある17館を紹介する。ミュージアム
がもっと身近で楽しくなる、魅力がたくさんみつ
かるパネル展。

iii) 第99回企画展「石っていろいろ！～がんせき・せっき・
かせき・・・いんせき！？～(仮)」【内容・日程を変更】

会期：1月21日(金)～3月13日(日)

内容：「石」に関する選りすぐりの逸品が勢ぞろい。仙台
市内にあるミュージアム自慢の資料を紹介する。

(2) 普及啓発事業

①学校教育との連携

i) 利用学習(縄文の森広場と合同して実施)

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主対象
とし、通年で当館の常設展示の見学・体験学習と縄文の森
広場の各種縄文体験による学習を行う。【6月以降の受入
れに変更】

ii) 職場体験活動

市内中学校からの要請に応じて、通年で職場体験活動を
受け入れる。【5月以降の受入れに変更】

iii) 博物館実務実習

学芸員資格取得を目指す大学生(定員12人)を受け入れ、
実習を行う。

期日：9月7日(火)～9月11日(土)

iv) 教職員利用研修

市内小・中学校の教職員を対象として、当館の展示と学
習活動を紹介し、学校教育との連携のあり方を検討する。

日時：8月6日(金) 13:30～15:30

②考古学講座

先史時代に関する考古学・環境などのテーマを設定し、
専門家による講座を2回実施する(縄文の森広場との連携
事業)。

第1回「古気候・気候変動・年代測定について」(仮称)

講師：中塚武氏(名古屋大学 大学院環境学研究所 教授)

日時：2月19日(土) 13:30～15:00

会場：研修室

・第2回「黒曜石分析について」(仮称)

講師：池谷信之氏(明治大学黒曜石研究センター 特
任教授)

日時：3月12日(土) 13:30～15:00

会場：研修室

③富沢ゼミ

富沢遺跡から明らかになった富沢地区の多様な歴史の一
端を紹介する講座。講師には、聴講者からの質問に随時答
えてもらいながら実施する。

第1回「進化する富沢遺跡の復元画 一絵描き・細野修
一とともに描いた世界」

講師：斎野裕彦氏(仙台市教育委員会文化財課)

日時：6月11日(金) 15:00～16:30

【7月30日(金)に変更して実施】

会場：研修室

第2回「富沢遺跡について(仮)」

講師：佐藤祐輔氏(仙台市縄文の森広場)

日時：12月11日(土) 13:30～15:00

【日程変更予定】

会場：研修室

④たのしい地底の森教室

当館に関わる様々なテーマに関して、毎月、館職員が取り上げて行う体験型イベント。各種体験教室や野外展示を活用した自主事業なども組み込み、子どもが楽しめる内容を中心に実施。

期日：土・日・祝を中心に毎月1～2回程度

13:30～14:30(内容により事前申込制で実施する)

【6月13日(日)より開始】

⑤地底の森フェスタ2021

一般市民を対象として館西側の芝生広場を会場に「やり投げ」・「石器づくり」・「編布服試着・小物づくり」などの体験活動や、石蒸し料理・複製土器で煮込んだ地底の森スープ・古代米おにぎりなどの試食を行う(縄文の森広場との連携事業)。

日時：10月11日(月) 10:00～15:00

【内容を見直し、10月9日～12日に変更】

⑥体験コーナー「石器をつかってみよう」【休止中】

学芸員やボランティアが製作した石器を使用して、型紙を切る体験を実施する。

期日：日曜日・祝日(館事業により休止する場合もある)

⑦市民文化財研究員の育成

公募した市民(定員10人)が、1年間にわたり週1回当館にて考古学や遺跡に関する学習活動を行う。館職員は、講義や遺跡見学会などの支援を行う。研究員は、それぞれのテーマに基づき自主学习を行い、その成果を活動報告にまとめる。【5月26日(水)より開始】

⑧ボランティア育成

市民文化財研究員を修了した希望者及び一般市民から募集し、展示解説や館行事の準備や補助などを行っていただくボランティアスタッフを養成する。また、登録している現ボランティアのスキルアップ研修も実施する(縄文の森広場との連携事業)。【5月までは月例会中止。来館者との接触を伴う活動は休止中】

i) 新規ボランティア養成講座

オリエンテーション：4月11日(日)

【6月26日(土)に変更】

第1回：5月30日(日)【7月25日(日)に変更】

第2回：6月26日(土)【8月22日(日)に変更】

第3回：7月11日(日)【9月26日(日)に変更】

第4回：7月25日(日)【10月3日(日)に変更】

第5回：8月1日(日)【中止】

ii) ボランティア育成講座

第1回「調査研究状況～フィールドワークから～(仮)」

講師：未定

日時：12月5日(日) 13:30～15:00

第2回「考古学の最新研究(仮)」

講師：未定

日時：2月6日(日) 13:30～15:00

iii) ボランティア遺跡見学会(縄文の森広場との合同見学会)

日時：11月13日(土) 8:30～17:00

【内容・日程変更して実施予定】

iv) ボランティア実技研修

「写真で伝える野外展示「氷河期の森」の魅力」

講師：門傳一彦氏(映像クリエイター)

日時：7月19日(月)

①14:30～16:00 ②15:30～17:00

⑨地域や大学との連携

地域の行事には積極的に参加・協働し、周辺の学校や社会教育施設、並びに地域住民とともに地域文化の中核となる博物館をめざす。また市内大学と連携し、学生サポーターとの協働も進めていく。

i) 太白区民まつりへの参画 10月【中止】

ii) 地域・近隣学校等との運営懇談会開催【未定】

iii) 体験学習事業での学生ボランティアとの協働

⑩インターネットおよびSNSによる情報発信

企画展の開催や体験活動などの情報を広く一般の方々に提供するため、ホームページを開設し、常時更新しながら情報発信する。またフェイスブックでの情報公開も行う。

⑪事業団の自主事業

i) 歴史的生活体験教室「親子でつくろう古代米」

近隣小学校3年生以上とその保護者10組を募集し、古代米の栽培・収穫を通して農業の歴史を実体験して感じて

もらう事業として6回の教室を実施する。関連イベントとして、12月11日(土)、入館者を対象に「古代米の稲わらで正月飾りづくり」を実施する。

- 第1回 5月15日(土)：オリエンテーション・田植え
- 第2回 6月19・20日(土・日)：土器づくり
- 第3回 7月17日(土)：石庖丁づくり
- 第4回 9月18日(土)：稲刈り
- 第5回 9月25日(土)：土器焼き
- 第6回 11月3日(水・祝)：収穫祭

ii) 歴史・芸術融合事業

「ミュージアム・シアター“狩人登場！”」

市内を中心に演劇などの表現で活動している劇団「短距離男道ミサイル」の劇団員が旧石器時代の狩人に扮し、館内外にて狩人出現とパフォーマンスを行う。

開催期間：6月～3月 20回程度

iii) 地域交流促進事業「2021 森の響き」

地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすい形で、野外展示「氷河期の森」の価値を高めることを目的として実施する。

日時：10月23日(土) 17:30～18:15

iv) 映像・記録発信事業

野外展示「氷河期の森」の撮影ワークショップなどを通して、市民から撮影・提供してもらった画像をもとに動画を制作し、当館のイベントやYouTubeで公開する。

日程：5月～3月

(3) 調査・研究事業

① 調査研究報告書の刊行

館職員・ボランティアなどによる考古学に関する調査研究活動及び研修活動の成果などを縄文の森広場と合同で「調査研究報告書」として刊行する。

② 遺構の各種分析調査

地下の遺構面の維持・管理のため、専門家の指導・助言を頂きながら、適正な保存・管理を行うために遺跡保存処理検討会を2回実施する。また、遺跡の状態を把握するための各種分析調査を実施する。

- 保存処理検討会 第1回：11月【内容・日程変更】
- 第2回：2月予定

③ 野外展示「氷河期の森」植生検討会・植生景観調査

野外展示「氷河期の森」の植栽の維持管理のため、植生検討会2回と植生調査を実施し、氷河期の森の維持について専門家の指導を受け、補植などを実施する。また、植生検討会は縄文の森広場と連携して実施し、植物の構成樹種の相違を活かした2つの異なる森づくりとその利活用を行う。

- 第1回植生検討会：5月【中止】
- 第2回植生検討会：11月予定
- 植生調査・景観調査 6月～12月

④ 常設展示の見直しに関する指導・助言

開館から25年を迎え、常設展の内容が最新の研究成果にそぐわない、反映していないところが増えてきた。来館者に正しい情報をより分かりやすく伝える展示内容や方法を検討する必要があるため、有識者を招き指導・助言をいただく。

(4) 縄文の森広場との連携事業

- ・山田上ノ台式縄文乃春 5月9日(日)【中止】
- ・山田上ノ台式縄文乃夏 8月9日(月・祝)【内容変更】
- ・山田上ノ台式縄文乃秋 10月23日(土)
- ・地底の森フェスタ2021 10月11日(月)【内容・日程変更】
- ・山田上ノ台式縄文乃冬 2月6日(日)

(5) 資料の収集・保管

① 常設展示関係

仙台市教育委員会で所蔵する常設展示に関する資料を借用し保管する。

② 保管資料

仙台市教育委員会が所蔵する旧石器時代・古墳時代に関する資料及び関係機関からの寄贈図書、購入図書、企画展実施のために製作した資料、寄贈資料などを収蔵する。

(6) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。

(7) 刊行物

- ①ミュージアム通信 年4回
- ②企画展刊行物(展示図録, ポスター, チラシ)【展示図録はパンフレットに変更】
- ③年報(縄文の森広場と合本)
- ④調査研究報告書(縄文の森広場と合本)
- ⑤リーフレット, パンフレット

6. 利用案内

●所在地

〒982-0012 宮城県仙台市太白区長町南四丁目3-1

●電話およびFAX

TEL 022(246)9153 FAX 022(246)9158

●Eメール t-forest@coral.ocn.ne.jp

●ホームページ

<https://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~chiteinomori/>

●開館時間

午前9時～午後4時45分(入館は午後4時15分まで)

●入館料・共通券

区分	個人	団体	共通入場券
一般	460円	360円	490円
高校生	230円	180円	280円
小・中学生	110円	90円	150円

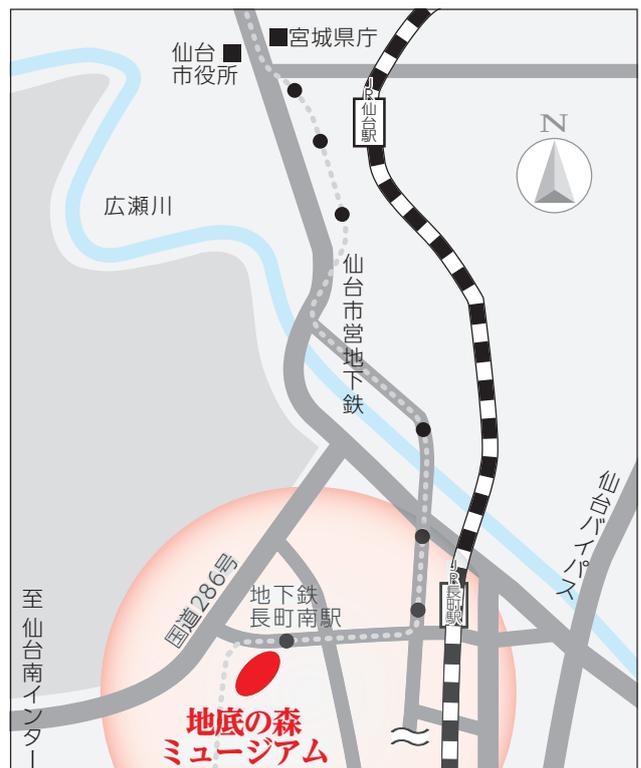
- ・団体は30人以上, 引率者は30人につき1人無料
- ・「地底の森ミュージアム」「仙台市縄文の森広場」共通入場券

●休館日

- 月曜日(休日は開館)
- 休日の翌日(休日, 土・日曜日にあたる日は開館)
- 1月～11月の第4木曜日(休日は開館)
- くん蒸のため臨時休館(12月24日～12月27日)
- 年末年始(12月28日～1月4日)

●交通案内

- ・地下鉄南北線長町南駅より西へ徒歩約5分
- ・JR東北本線長町駅より西へ徒歩約20分・東北自動車道 仙台南インターより東へ約7km



【仙台市縄文の森広場】

1. 令和2年度事業報告

令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によって100%の形では運営できなかったが、将来的な需要なども見据えて、YouTube・Zoomの運用をはじめオンラインやSNSの活用などを積極的に行った。新型コロナウイルス感染症状況下において市民の価値観とサービス受容環境が多様化する中で、特定の人のみが恩恵を受けることがないように、新型コロナウイルス感染症の終息後に館活動や情報発信が100%以上になることを考慮して事業を計画・実施した。

(1) 展示事業

① 常設展示

○エントランスホール

当館の概要及び特長を紹介する映像が流れ、当館が完成するまでの軌跡を円形の壁面パネルにて展示している。壁面にある展示ケースでは、体験作品の見本やミニ企画展の拡張展示など、定期的に展示内容を変更している。令和2年12月19日(土)～令和3年2月28日(日)は、丑年にちなんで丑形土製品をプレゼントする企画を行い、さらにその展示も行った。期間中、プレゼントを受け取られた来館者(「冬のじょうもんクイズラリー」に全問正解した方、丑年生まれの方)は合計188人であった。

当館ボランティア製作の複式炉模型の展示やオリジナルグッズの販売も行っている。

○ガイダンス展示室

<体験導入室1>「展示1 縄文ムラを発掘する」

山田上ノ台遺跡の発掘調査成果について、各種パネルや出土資料の展示などをおして紹介している。床面には竪穴住居の出土状況写真も展示している。また発掘の原理、



縄文ムラを発掘する

調査の実際などを模型やVTRを使って紹介している。

<体験導入室2>「展示2 縄文ムラがよみがえる」

山田上ノ台の縄文ムラの情景を模型で再現している。新型コロナウイルス感染症対策として、ハンズオンや接触の多い展示は一部撤去した。

・縄文学ラウンジ

縄文時代に関連した調べ学習ができるように、関連図書を整備している。加えて縄文時代に食べられていたと考えられる木の実や雑穀などの実物も展示、紹介している。



縄文学ラウンジ

・縄文土器 年表&パズル

約12,000年間続いた縄文時代の、時期ごとの土器型式の違いを、仙台市内の遺跡とともに紹介するパネルを展示している。

・縄文時代の環境復元

縄文時代の植物環境についての説明パネルと、花粉が顕微鏡で実際どのように観察できるのか、モニター展示している。

・土器、石器がおしえてくれること

土器に残された痕跡からわかること、石器の用途などを紹介している。

<体験導入室2>「展示3 縄文ムラのくらしが見える」

・縄文人のすまいとくらし

竪穴住居の内部の様子を模型で紹介して、土器や石器などの出土品からわかった縄文人の生活を紹介している。



竪穴住居の模型



夏のコーナー展示

② 企画展示

今年度は、震災復興に関連する調査で明らかになった東北地方の縄文遺跡について、3回行った。

1回目の浜川目沢田Ⅰ遺跡の展示は、臨時休館と重なったため、延長して開催した。

i) 春のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—岩手県山田町浜川目沢田Ⅰ遺跡—」

○会期：令和2年3月14日(土)～10月18日(日)

○入館者数：2,499人(4/1～)

○展示内容：岩手県山田町に所在する縄文時代前期～晩期の浜川目沢田Ⅰ遺跡から発見された縄文土器や石製品を展示し、長期間営まれた遺跡の具体像を紹介することを目的とした。

○展示構成：展示趣旨・遺跡位置図及び遺跡紹介文字パネル、遺跡や遺物の写真パネルなど。

会期は当初6月7日(日)までとしていたが、4月11日(土)～6月7日(日)の間、臨時休館となったため、10月18日(日)まで延長した。

ii) 冬のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—石巻市中沢遺跡—」

○会期：令和2年12月1日(火)～令和3年2月11日(木・祝)

○入館者数：488人

○展示内容：宮城県石巻市に所在する縄文時代前期の中沢遺跡から発見された縄文土器や岩偶などに焦点をあてて展示し、宮城県内の縄文遺跡の理解を深めてもらうことを目的とした。

○展示構成：展示趣旨・遺跡位置図及び遺跡紹介文字パネル、遺跡や遺物の写真パネル紹介、中沢遺跡出土の遺物など。

iii) 春のコーナー展示

「東北の縄文遺跡—福島県南相馬市中才遺跡—」

○会期：令和3年3月13日(土)～6月13日(日)

○入館者数：44人(～3/31)

○展示内容：福島県南相馬市に所在する縄文時代後・晩期中才遺跡から発見された縄文土器や石器などに焦点をあてて展示し、製塩活動を伴う縄文の集落について理解を深めてもらうことを目的とした。

○展示構成：展示趣旨・遺跡地図及び遺跡紹介文字パネル・写真パネルなど。

③ 野外展示

i) 縄文ムラと広場

野外には、竪穴住居を復元し、その他の遺構を表示している縄文ムラゾーンと、植物栽培などを行う広場ゾーンがある。それらの周りにはクリやコナラなどの森を復元し、縄文時代の環境を含めて、集落を再現している。当年度は樹名板や案内看板の設置の準備に取りかかった。設置は令和3年度に実施した。



縄文ムラの環境の復元

・縄文ムラ(野外展示の東半部)

発掘調査では38棟の竪穴住居跡をはじめ、貯蔵穴、落と

し穴などが多数見つかっており、各遺構は主に見晴らしの良い台地の縁辺に沿って造られている。野外の東側には同時期に建っていたことがわかった竪穴住居3棟を復元し、また周囲には貯蔵穴や落とし穴、ゴミ捨て場などの遺構を表示し、縄文時代のムラの様子を再現している。

・復元住居について

3棟の竪穴住居の復元については、いずれもクリ材で骨組みを造り、土屋根タイプの構造を採用している。その中の14号住居はガイダンス展示室内にも一部を復元している。14号住居は地面を円形に掘り凹めて平らな床をつくり、8本の柱を立て、屋根は土で葺いた竪穴住居である。入口にあたる床の南側には、小石で囲まれた土器と大きな河原石の石組みなどからできた複式炉と呼ばれる大きな炉がある。



14号復元住居(左)と9号復元住居(右)

・広場(野外展示の西半部)

当時の広場と推定される場所を含めて西側一帯は、野外での縄文体験やイベント、縄文人が育てていた作物の栽培、体験活動を兼ねた発掘調査などを行う場として利用している。

ii) 植生

野外にはムラや広場とともに、縄文時代の森の様子を推定復元している。当時の植生についてはこれまでの研究で、縄文ムラの近くには現在の雑木林に近い落葉広葉樹林の豊かな森が広がっていたことがわかっている。これらを参考にして、高木はクリ、クルミ、トチ、コナラなど、低木はタラノキ、ガマズミ、ミズキ、ニワトコなど、草本ではササ、チガヤ、キキョウなどを植栽している。また、「植生検討会」での指導・助言を受けて、森の維持管理・充実を図っている。
※令和2年度は検討会1回のみ実施。



植生の復元

iii) 縄文畑

野外広場の北西部には、縄文時代に栽培されていた可能性がある作物や有用植物の見本畑がある。現在はヒエ・アワ・キビの雑穀やエゴマ・ツルマメ・ヤブツルアズキの他に、アケビ、ヤマブドウ、カラムシなどを育てている。令和2年度はマタタビを追加した。



縄文畑



つる性木本栽培棚

(2) 普及啓発事業

① 夏休み子ども考古学教室

小学生と保護者がさまざまな体験活動を実施しながら縄文時代に関する理解を深め、生活の様子や知識を学ぶ機会とすることを目的に実施した。火おこし体験・石のアクセサリーづくりなど親子で楽しめるメニューの体験活動を行った。

- ・日時：8月22日(土) 10:00～12:00
- ・参加者：5組14人



夏休み子ども考古学教室

② 長期休暇特別イベント

より多くの市民に当館に興味関心を持っていただくことを目的とし、市内小中学校の長期休暇期間にあわせて、普段とは異なる体験活動メニューを無料で実施した。

○夏休み特別イベント

「つくって！縄文ー縄文風ペーパークラフトー」

- ・日時：8月2日(日) 10:00～12:00, 13:00～15:00
- ・参加者：13組49人

○冬休み特別イベント

「つくって！縄文ー縄文柄の年賀状づくりー」

- ・日時：12月26日(土) 10:00～12:00, 13:00～15:00



縄文柄の年賀状づくり

- ・参加者：16組44人

③ 発掘体験教室

縄文人が生活していた時代の土に触れ、遺構や遺物を発見するなどの発掘体験を通して、歴史や当時の生活に興味を持っていただくことをねらいとした。昨年度に引き続き、遺物包含層を調査対象として仙台市教育委員会文化財課が調査を実施した。期間中の10月11日(日)・14日(水)に小学5年生以上を対象として実施した。

- ・日時：10月11日(日) 10:00～12:00

雨天により中止

- 10月14日(水) 10:00～12:00

- ・参加者：7人



発掘体験教室

④ 発掘資料整理体験教室

山田上ノ台遺跡の発掘調査で出土した土器や石器などの遺物に触れ、歴史を身近に感じてもらうねらいで実施した。実際の整理作業と同じような洗浄や拓本取りの作業体験が主な内容であった。

- ・日時：11月29日(日) 10:00～14:00

- ・参加者：6組13人



発掘資料整理体験

⑤ 縄文の知恵と技を学ぶ

本事業は、縄文時代の人々の生活の技術や知恵を学ぶために大人も対象としてモノづくりを行った。

○「ベンケイガイの貝輪づくり」

- ・日時：9月6日(日) 10:00～15:00
- ・参加者：6人

○「How to 火起こし」

- ・様々な火起こしの方法について、実際に体験しながら学習した。
- ・日時：11月8日(日) 10:00～12:00
- ・参加者：3組9人



ベンケイガイの貝輪づくり



火起こし

⑥ 週末体験講座

さまざまな縄文体験を実施した。各回定員を8組とし、事前申込み制で行った。

参加者アンケートによる満足度はどの回も高く、縄文時代に興味・関心を持ってきている様子が見えかけた。

- ・「編布のポケットティッシュカバーづくり」
9月13日(日) 10:00～14:00 参加者：7組16人
- ・「干支の土製品づくり」
11月15日(日) 10:00～14:00 参加者：6組10人
- ・「板状土偶をつくらう」
1月24日(日) 10:00～12:00 参加者：6組14人
- ・「サクラの草木染め」

3月7日(日) 10:00～14:00 参加者：18人

⑦ 縄文の森講座「仙台発掘最前線」

新型コロナウイルス感染症の影響により1回のみで開催とし、会場・オンラインの併用で実施した。

- ・日時：3月13日(土) 13:30～15:00
- ・参加者：75人(会場29人 オンライン46人)
- ・講師：三浦一樹氏、妹尾一樹氏、木村恒氏(仙台市教育委員会文化財課)

⑧ 縄文まつり

本事業では季節ごとに特色ある縄文まつりを行っていたが、当年度は春・夏は中止、秋・冬は特別イベントとして規模を縮小して実施した。コンサートタイムでは、和太鼓演奏を披露していただいた。

○縄文春まつり、夏まつり 中止

○縄文秋まつり

- ・日時：10月24日(土) 10:00～15:00
- ・内容：「特別イベント」カラーリングブック
- ・参加者：13人

○縄文冬まつり

- ・日時：1月31日(日) 10:00～15:00
- ・内容：「特別イベント」カラーリングブック、ミニコンサート“和太鼓飛竜の会”
- ・参加者：163人



和太鼓飛竜の会

⑨ 縄文のまつり復元と創造プロジェクト

文化事業団の自主事業で、市民と協働で縄文時代のまつりを復元・創造するプロジェクト。無観客で行い、YouTubeで公開した。

⑩ 学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」

文化事業団の自主事業。山田上ノ台遺跡や縄文文化とは何であるのかを地域の人々に知っていただく機会を設け、

近隣の小中学校や地域の市民センター・児童館との結びつきを深めることで、縄文の森広場がより地域に根差した施設となることを目的とする事業である。

○オンライン カラーリングブックづくり

楽描きエーター44(ヨッシー)氏に縄文の森広場に関連するカラーリングブック(ぬり絵)の制作を依頼し、当日は実際にオンラインでカラーリングブックを作っていくワークショップを実施した。

- ・日時：3月6日(土) 13:00～15:00
- ・参加者：8人

⑪ 展示手法の開発と導入

3次元データ計測とリビング・ストーリーの2つを軸に今後の展示計画を検討した。令和2年度は、山田上台遺跡の縄文土器を中心に、3次元計測を行った。

⑫ 野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける“じょうもん”」

縄文時代の植生を復元した野外展示を、地域住民や学校と共につくりあげることが目的とした事業で、近隣の太白小学校1年生を対象として、太白山自然観察の森でクリやクヌギなどの種を採取し、植え付けを行った。

第1回

- ・日時：10月15日(木) 9:30～11:40
- ・対象：太白小学校1年生
- ・会場：仙台市太白山自然観察の森
- ・参加者：37人

第2回

- ・日時：3月5日(金) 10:30～12:00
- ・対象：太白小学校1年生
- ・会場：太白小学校
- ・参加者：37人



森でみつける“じょうもん”

⑬ 運営懇談会

当館の活動を紹介し、地域の町内会や小・中学校、市民センターなどの方々の意見をいただき、事業に反映させるために運営懇談会を1回開催した。

- ・日時：2月26日(金)
- ・参加者：16人

⑭ 新型コロナウイルス感染症拡大中(臨時休館中も含む)に取り組んだ新しい試みなど

- ・YouTubeの運用開始
- ・Facebookを利用した積極的な情報発信(おうちミュージアムへの参加他)
- ・オンライン併用の講座を実施
- ・季節のクイズラリー(夏・秋・冬)
夏：39人 秋：255人 冬：291人
- ・夏休みの工作プレゼント
ペーパークラフト配布：261枚配布

(3) 体験活動事業

① 各種体験活動

i) 随時体験

当施設の特徴の一つは、来館者が予約なしでいつでもメニューを選んで実施できる随時体験であるが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、9月30日まで随時体験を休止した。10月から、日時限定・事前予約制で勾玉づくり、1月からは、石のアクセサリーづくりも加えて行った。

- ・参加者：297人



随時体験

ii) 団体の予約体験

令和2年度は27組の団体から見学・体験の申込みがあり、延べ人数は898人である。団体の内訳は市内の小中学校を中心に、県内外の小・中学校、デイサービスセンターなど

である。体験活動は勾玉づくりや石のアクセサリーづくり、土器づくりなど。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、見学のみ利用も多い。新型コロナウイルス感染症の影響で、県外からの利用は少なかった。



校外学習

の影響で、例年の半数程度の利用だった。また、令和2年度から新学習指導要領が改訂され、歴史学習の開始時期が変更になったこともあり、6～7月の利用が中心となった。本事業の詳細は当館ホームページ上にて公開している「利用学習実践報告」を参照されたい。



利用学習

iii) 出前講座

小学校・市民センターなどの依頼で、職員が希望の場所へ出向いて体験活動を行った。今年度は市内外の小学校や市民センターなど4団体に対応した。

- ・遠見塚小学校「土器づくり」 参加者：70人
- ・泉岳自然ふれあい館「よりよりミサンガづくり」
参加者：32人
- ・遠見塚小学校「土器焼き」 参加者：72人
- ・人来田マイスクール児童館「干支の土製品づくり」
参加者：31人



出前講座

② 学校教育との連携

i) 利用学習

学校の授業の一環として、地底の森ミュージアム及び当館が交通費（バス代）を負担し、体験活動と展示見学を組み合わせた学習活動を行う利用学習事業には、市内13の小学校1055人の参加があった。新型コロナウイルス感染症

ii) 博物館実務実習

大学で行われている博物館学の講義の一環として、学芸員資格取得のための実習を行った。館運営に関する講座のほか、縄文秋まつりの準備、発掘体験教室の準備と実施、体験活動の指導法などの実習を行った。

- ・日時：10月9日（金）～13日（火）
- ・参加者：3校4人

iii) 教職員機関研修

学校教育との連携をはかる事業の一環として、市内小中学校教職員を対象に参加者を募集し、教職員利用研修会及び機関研修を行い、当館の概要説明や体験活動の周知を図る。

- ・対象と定員：市内小中学校教員10人程度
- ・日時：9月18日（金） 14:00～16:00

※今年度は参加申込なし

iv) 職場体験活動

10、11月に市内中学校2校から職場体験の申し込みがあり、対応した。当館の勤務内容を体験するとともに、事業内容などについても説明を行った。これまで来館者の立場で当館を利用した生徒もおり、職員にとっても来館者の生の声を聴くことのできる貴重な機会となった。

- ・参加者：郡山中学校6人、人来田中学校5人

(4) ボランティア活動事業

① ボランティア育成講座

ボランティア育成講座新規応募者3人及び修了者(ボランティア)60人を対象に計4回の講座を開催した。内容はボランティア活動の内容、体験活動の技術研修などである。

- ・第1回：オリエンテーション・施設見学
7月4日(土) 10:00～12:00
参加者：7人
- ・第2回：土器・土製品づくり
7月18日(土) 10:00～15:00
参加者：15人
- ・第3回：勾玉づくり
8月9日(日) 9:00～15:00
参加者：2人
- ・第4回：石のアクセサリーづくり・火起こし 修了式
8月23日(日) 10:00～12:00
参加者：5人

例年おこなっていた視察研修は中止としたが、地底の森ミュージアムとあわせてオンライン練習会を2月25日(木)に実施した。



ボランティア育成講座

② ボランティア会との連携

仙台市縄文の森広場ボランティア会は、当館の運営をあ

らゆる面で支えるボランティアスタッフが運営する組織である。平成18年5月28日に設立され、今年度は60人が会員となった。館と会との連絡・調整は、毎月第4日曜日の定例会を中心に行っている。ここでは、館から翌月の事業に対する協力要請を説明したり協議したりしながら、サポート体制の構築を図っている。活動内容としては来館者と接触しない活動に限定した(体験活動の準備等)。また、記念品・ミュージアムグッズの製作も行っている。ボランティアによる手作りの「勾玉」・「編布」・「土製品」はいずれも好評を得ており、修学旅行の子どもたちや家族づれに特に人気が高い。

以上のような、多岐にわたるボランティア会のさまざまな活動は、当館をより魅力的なものとするうえで非常に重要な役割を担っている。館とボランティア会との連携を、今後より多方面に展開し、強化していきたい。

○令和2年度のボランティア登録者数

・60人(前年度から継続57人+新規3人)

○令和2年度のボランティアの活動実績

・延べ168人

・延べ804時間

○令和3年度以降の展開・方向性について

前年度末募集「令和3年度ボランティア」には新規9人の申込があった(うち1人辞退)。また、前年度登録ボランティアの継続(登録更新)は53人となった。令和3年度は61人での活動になる。

・育成講座は新型コロナウイルス感染症拡大の状況を踏まえて、日時を設定する。

・当面、来館者と接する活動は見合わせる。

・定例会をオンライン併用で行う(館と連絡をとりやすい環境を準備)。

(5) 調査・研究事業

① 体験プログラムの開発

体験施設である当館にとって、新規体験プログラムの開発は来館者に飽きを感じさせないための重要な要件である。既存体験メニューの見直し、体験内容と縄文文化をより分かりやすく紹介する方法、及び新規プログラムの開発に取り組んだ。体験活動に制限ができたぶん、クイズラリーなどを実施したり、YouTubeで石器づくりや火起こし、土製品づくりの動画を公開した。

② 復元住居の維持管理

当館の野外広場にて復元・公開している土屋根式竪穴住居を、より良好な状態で維持管理する方法について検討を

行った。

また、兵庫県立考古博物館主催のシンポジウム「古代体験研究フォーラム2020 つくる たもつ つなぐ—復元建物のこれからを考える」に当館職員佐藤祐輔が招聘され「持続可能な維持管理—復元建物の燻蒸の効果—」と題してオンラインで発表を行った。

③ ボランティアスタッフとの共同調査

縄文時代及び当館の管理運営に関わる様々な内容について、ボランティアスタッフと共同で調査活動を行った。

④ 調査研究報告書

仙台市富沢遺跡保存館と合本で、『地底の森ミュージアム・縄文の森広場研究報告2020』を発刊した。

「仙台市縄文の森広場の植栽リストについて」の報告のほか、地底の森ミュージアムからも2本の報告が行われている。

2. 利用状況

令和2年度の開館日数は259日で、その間の全利用者数8,491人であった。前年度の25,462人に比較すると、16,971人減となっている。

体験活動者数は1,924人(団体の複数体験者も含む)で、全利用者数の約23%となり、例年より少ない。新型コロナ

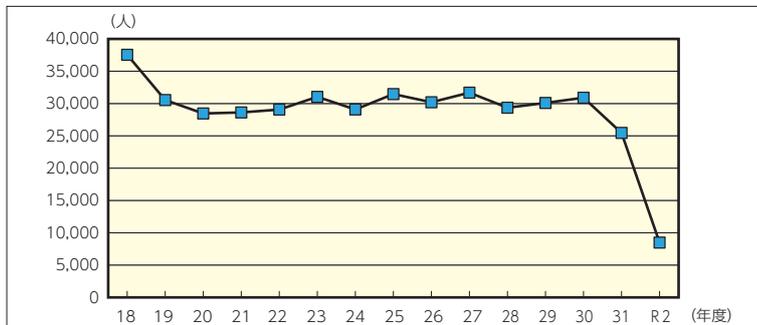
ウィルス感染症拡大防止のため、9月30日まで随時体験を休止した。体験活動内容では石のアクセサリーづくりが全体の57.4%を占めて最も多く、続いて勾玉づくり19.3%と続く。

なお、平成18年7月15日の開館から令和3年3月31日までの入館者の累計は432,076人である。

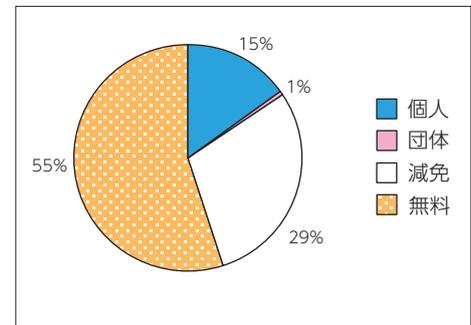
入館状況 (令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

月	有 料							無 料					体験活動者		合計
	個 人			団 体				計	減 免			無料入館	計	内、団体体験 重複者(-)	
	一般	高校生	小・中学	一般	高校生	小・中学	一般		高校生	小・中学					
4	5	0	1	0	0	0	6	8	0	5	123	136	0	0	142
5	43	0	0	0	0	0	43	33	0	18	152	203	0	0	246
6	95	2	0	0	0	0	97	23	0	58	272	353	32	32	450
7	164	1	1	0	0	0	166	55	0	558	345	958	709	523	1,310
8	153	3	5	0	0	0	161	24	0	73	297	394	14	0	569
9	126	0	3	28	0	0	157	55	0	498	407	960	566	552	1,131
10	108	0	32	20	0	0	160	67	0	162	761	990	38	0	1,188
11	135	2	0	0	0	0	137	125	0	205	515	845	207	125	1,064
12	51	0	10	0	0	0	61	27	0	101	262	390	121	94	478
1	65	1	0	0	0	0	66	64	0	23	410	497	84	0	647
2	144	0	2	0	0	0	146	43	0	48	355	446	114	0	706
3	44	3	1	0	0	0	48	28	0	10	435	473	39	0	560
計	1,133	12	55	48	0	0	1,248	552	0	1,759	4,334	6,645	1,924	1,326	8,491

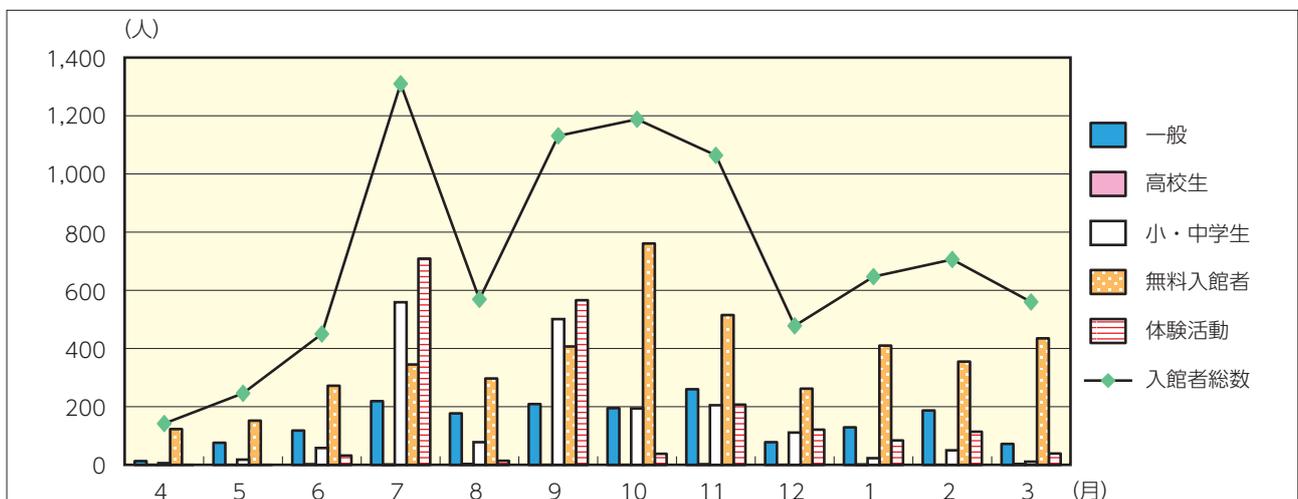
開館年度からの入場者推移



入館者内訳



月別入館者数

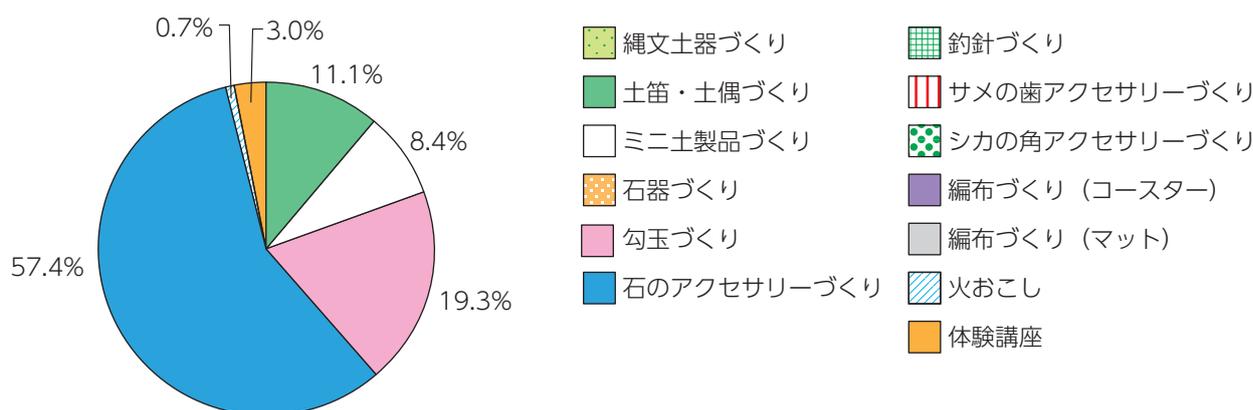


体験活動者数

(団体の複数体験も含む)

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年9月まで随時体験を休止、10月からは日時と内容・人数を制限して行った(単位:人)

月	体験メニュー													合計
	縄文土器づくり	土笛・土偶づくり	ミニ土製品づくり	石器づくり	勾玉づくり	石のアクセサリーづくり	釣針づくり	サメの歯アクセサリーづくり	シカの角アクセサリーづくり	編布づくり(コースター)	編布づくり(マット)	火おこし	体験講座	
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	30
7	0	164	0	0	24	479	0	0	0	0	0	0	0	667
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8
9	0	12	42	0	114	319	0	0	0	0	0	12	10	509
10	0	0	0	0	27	0	0	0	0	0	0	0	0	27
11	0	3	79	0	44	40	0	0	0	0	0	0	10	176
12	0	11	0	0	20	79	0	0	0	0	0	0	0	110
1	0	0	23	0	16	13	0	0	0	0	0	0	7	59
2	0	0	0	0	50	40	0	0	0	0	0	0	0	90
3	0	0	0	0	5	11	0	0	0	0	0	0	17	33
計	0	190	144	0	330	981	0	0	0	0	0	12	52	1,709



3. 入館者アンケート

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。

験活動などに展開し、芸術分野や他分野との積極的な交流を推し進めながら、各年代層に応じた豊かな「学び」の機会を提供する施設を目指す。

4. 令和3年度事業計画

基本方針

仙台市先史遺跡保存活用施設条例及び指定管理事業計画に基づき、「人間と環境を考えるランドマーク」として地底の森ミュージアムと相互補完し合いながら、山田上ノ台遺跡の保存と公開及び縄文時代の資料の保存・調査・活用を行う。また様々な展示・体験・講座等を通して「歴史」に学ぶ活動を展開する。併せて当館の特色として調査・研究活動の成果を基にした「自然と共生した縄文人の知恵」を体

(1) 展示事業

① コーナー展示

コーナー展示を実施する。

- ・春のコーナー展示「東北の縄文遺跡－福島県南相馬市中才遺跡－」
3月13日(土)～6月13日(日)
- ・夏のコーナー展示「東北の縄文遺跡－仙台市川前遺跡－」
7月31日(土)～10月17日(日)
- ・冬のコーナー展示「東北の縄文遺跡」(仮称)
12月1日(水)～2月13日(日)

- ・春のコーナー展示「東北の縄文遺跡」(仮称)
3月19日(土)～

② 野外展示「縄文の森広場」植生検討会

- 第1回植生検討会：縄文の森広場・地底の森ミュージアム 6月上旬予定
- 第2回植生検討会：縄文の森広場・地底の森ミュージアム 11月上旬予定

(2) 普及啓発事業

① ボランティア育成講座

新規のボランティア10人を募集し、来館者や参加者によりわかりやすい説明や体験活動の補助を行うための研修事業。現ボランティアのスキルアップ研修も兼ねる。

- ・第1回講座：開講式など
5月23日(日) 13:00～14:30
- ・第2回講座：勾玉づくり
6月6日(日) 10:00～15:00
- ・第3回講座：石のアクセサリーづくり
6月27日(日) 13:00～14:30
- ・第4回講座：土器づくり
7月11日(日) 10:00～15:00
- ・第5回講座：土製品づくり
7月25日(日) 13:00～14:30
- ・第6回講座：土器野焼き
9月19日(日) 9:00～12:00

② 縄文の森講座

考古学に関する講演会を実施し、最新の研究状況を取り上げる。

- ・「仙台発掘最前線」2月20日(日) 13:00～15:00

③ 縄文まつり(コンサート含む)

季節ごとに開催する。春・秋には体験や縄文に関係したゲームなど実施し、夏・冬には体験や縄文に関係したゲームなどのほか、コンサートも実施する。

- ・縄文春まつり 5月9日(日) 10:00～15:00
新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止
- ・縄文夏まつり 8月9日(月・振休) 10:00～15:00
- ・縄文秋まつり 10月23日(土) 10:00～15:00
- ・縄文冬まつり 2月6日(日) 10:00～15:00

④ 夏休み子ども考古学教室

火おこし、勾玉づくりなどの様々な体験を行う。

日時：8月21日(土) 10:00～12:00

⑤ 特別イベント

縄文時代や歴史に関わる、普段とは異なる体験メニューを行うイベントを行う。

日程：夏休み(7月31日)、秋休み(10月10日)、冬休み(12月25日)、春休み(3月26日)

⑥ 週末体験講座

様々な作品づくりや生活体験などを実施し、縄文人の技と心を学ぶ。

日時：5月30日、9月12日、11月14日、1月23日、3月6日(土又は日/時間は回により異なる)

⑦ 発掘体験教室

敷地内で行われる発掘調査に参加する体験、出土遺物の水洗・拓本などの整理作業に参加する体を行う。

- ・発掘体験 10月13日(水)・17日(日)
各10:00～12:00
- ・整理体験 12月5日(日) 10:00～14:00

⑧ 縄文の知恵と技を学ぶ

本格的な縄文作品づくりを体験する教室を行う。

日時：9月5日(日)、11月7日(日) 各10:00～15:00

⑨ 利用学習事業【地底の森ミュージアムと合同して実施】

仙台市内の小学校5・6年生及び中学校1年生を主たる対象とし、地底の森ミュージアムと当館の見学と各種の縄文体験による体験学習を行う。

日程：学校側の希望による(通年)

⑩ 施設利用予約

利用学習事業参加校以外の学校、子ども会、町内会等の各種団体を対象として展示解説や縄文体験を行う。

⑪ 随時体験

来館者に様々な縄文体験メニューを提供する。参加者の利便性を高め、より多くの市民が気軽に当館を訪れ体験活動に参加できるよう予約なしで随時受け入れることとする。

⑫ 出前講座

学校や市民センターなどからの依頼により、職員が希望の場所へ出向いて体験活動を行う(通年)。

⑬ 教員機関研修【地底の森ミュージアムと合同実施】

学校教育との連携事業を推進するために、仙台市内の教職員を対象（定員10人）として当館の概要及び体験活動事業を周知する機会とする。

・日時：8月6日（金）

⑭ 野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつかる“じょうもん”」

野外展示「縄文の森」の利活用の幅を広げるために、地域の団体や小学校などと連携した事業で専門家の指導を受けて太白山自然観察の森で生育するクリなどを採取し育てる事業を行う。

太白小1年生を対象 10月と3月に実施予定。

⑮ 博物館実務実習

学芸員資格取得をめざす大学生を数人受け入れ、実習を行う。

日時：10月中旬（計5日間） 9:30～16:00

⑯ 職場体験・インターンシップ

近隣中学校の要請により、中学2年生を対象とした職場体験の受け入れなどを行う。

日時：11月～12月頃（学校の希望による）

⑰ 情報発信

- ・ホームページの更新
- ・Facebookの更新
- ・YouTubeの更新
- ・館内の情報提供（掲示物：発掘調査情報、他施設イベント情報）

⑱ ボランティア会との連携

- ・定例会開催と館運営の協力依頼
- ・自主的な会活動に対する支援
- ・ミュージアムグッズの共同開発と制作販売の支援
- ・オンライン併用での情報交換

⑲ 地域と連携

町内会などの地域住民の行事に対しては、共催や後援等の形で活動の場を提供しながら支援を行う。

⑳ 運営懇談会

2月18日（金）

㉑ 専門研修

2月24日（木）

㉒ 文化事業団の自主財源事業

- i 縄文祭復元事業「縄文まつり復元と創造プロジェクト」
- ii 学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」
 - ・「ドキ土器チョコレート」づくり 2月上旬予定
 - ・「土器を食べちゃえ！土器片形クッキー“ドッキー”をつくろう」 2月後半予定
- iii 縄文の森オリジナルグッズ制作販売
- iv 展示手法の開発・導入
 - ・縄文土器の3次元データ作成
 - ・リビング・ストーリー手法

(3) 調査・研究事業

- ①縄文時代に関する調査研究
- ②体験活動メニュー、プログラムに関する調査研究
- ③復元住居の経年変化等観察記録・分析にもとづく維持管理に関する調査研究
- ④西側広場一帯の整備に向けた調査研究
- ⑤ボランティアスタッフとの共同調査研究の実施
- ⑥上記の研究成果をまとめた調査報告書を地底の森ミュージアムと合本で刊行
- ⑦2021年度コーナー展示の資料調査
- ⑧植生復元に関する調査研究

(4) 資料の収集・保管

- ①仙台市から借用保管している山田上ノ台遺跡等の縄文時代を中心とした資料を適切に管理し、各種事業活動に活かす。
- ②事業活動の充実を図るため、縄文時代を中心とした資料、及び縄文時代に関する文献の収集を行う。

(5) 管理運営

「仙台市先史遺跡保存活用施設条例」に基づいた「指定管理者事業計画書」により管理運営を実施する。

(6) 刊行物

- ①ハナちゃん通信 年4回（6月・9月・12月・3月）
- ②イベント紹介チラシ 年2回（9月・3月）
- ③年報 9月末刊行（地底の森ミュージアムと合本で）

④調査研究報告書 年度末刊行(地底の森ミュージアムと合本で)

⑤リーフレット, パンフレット, 封筒

5. 利用案内

●所在地

〒982-0815 仙台市太白区山田上ノ台町10番1号

●電話およびFAX

TEL 022(307)5665 FAX 022(743)6771

●Eメール j-hiroba@cap.ocn.ne.jp

●ホームページ

<https://www.sendai-c.ed.jp/~bunkazai/~jyoumon/>

●開館時間 午前9時～午後4時45分

(体験受付は午前9時～11時30分/午後12時30分～3時, 入館は午後4時15分まで)

●入館料・共通券

区分	個人	団体	共通入場券
一般	200円	160円	490円
高校生	150円	120円	280円
小・中学生	100円	80円	150円

・団体は30人以上, 引率者は30人につき1人無料
 ・「地底の森ミュージアム」「縄文の森広場」共通入場券

●休館日

月曜日(休日は開館)

休日の翌日(休日, 土曜・日曜日にあたる日は開館)

1月～11月の第4木曜日(休日は開館)

年末年始(12月28日～1月4日)

●交通案内

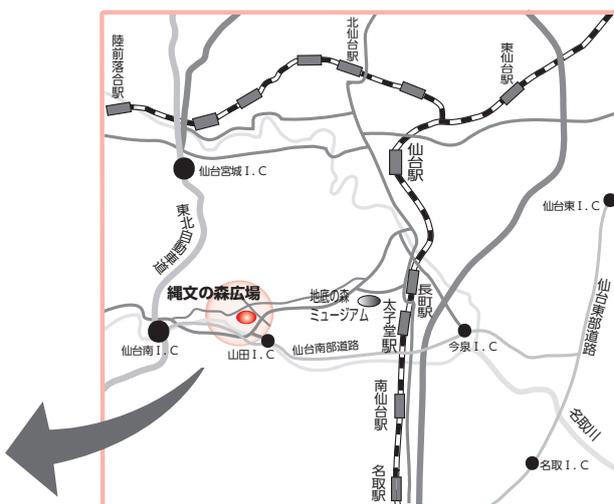
【バス】

県庁市役所～仙台駅～長町駅より宮城交通バス「秋保」「日本平」「茂庭台」「南ニュータウン」行きにて「山田・太白消防署前」停留所下車徒歩5分

【車】

東北自動車道: 仙台南インターから約4km

仙台南部有料道路: 山田インターから約1km



地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報 2021

発行日 令和3年(2021)9月30日

発行 仙台市教育委員会
〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-5-12 上杉分庁舎 TEL (022) 214-8892

編集 (公財) 仙台市市民文化事業団 仙台市富沢遺跡保存館
〒982-0012 仙台市太白区長町南4-3-1 TEL (022) 246-9153

印刷 今野印刷株式会社
〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-10 TEL (022) 288-6123



この印刷物は再生紙を
使用しています。